

令和 6 年度みえ森と緑の県民税基金事業 資料編

① みえ森と緑の県民税基金積立金事業	
② 災害に強い森林づくり推進事業	1
ア 災害緩衝林整備事業	
③ 災害に強い森林再生事業	12
④ 森林情報基盤整備事業	13
⑤ 森を育む人づくりサポート体制整備事業	
ア みえ森林教育ビジョン推進事業	16
イ みえ森づくりサポートセンター運営事業	32
ウ みえ森林教育ステーション運営・整備事業	38
⑥ みんなで取り組む三重の森林づくり推進事業	43
⑦ 生物多様性推進事業	46
⑧ 森林とふれあう自然公園環境整備事業	50
⑨ みえ森と緑の県民税市町交付金事業	
みえ森と緑の県民税市町交付金事業の概要	56
ア みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業	
a 流域防災機能強化対策事業	58
b 災害からライフラインを守る事前伐採事業	60
c 県民参加の植樹祭事業	62
イ みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業	63
⑩ みえ森と緑の県民税制度運営事業	70

② 災害に強い森林づくり推進事業

担当課：治山林道課

基本方針：① 災害に強い森林づくり

対策区分：① 土砂や流木による被害を出さない森林づくり

1 事業の目的

近年の山地災害に見受けられる流木や土砂流出による被害を低減するため、浸食されやすい谷地形や脆弱な土壌等を立地環境とする溪流沿いの森林において、「流木の発生を抑制する」、「上流からの流木や土砂、土石流等の流下を緩衝する」、「山腹斜面からの倒木や土砂等の流入・流下を抑制する」といった災害緩衝機能を発揮する森林の整備を行います。

2 事業の必要性

近年、局地的な集中豪雨の増加に加え、手入れが行き届いていない森林の増加などにより、土石流発生時に溪流沿いの木を巻き込み流下し、流木となって人家や公共施設等への被害を拡大させるケースが増加しているため、引き続き、事業を継続して進めていく必要があります。

3 事業の内容

ア 災害緩衝林整備事業

- ① 流木や土砂の流出による災害の発生の恐れのある溪流部において、流木となる恐れのある危険木を下流へ流れ出さなくするために危険木の伐採・搬出を行います。
- ② ①の溪岸部において、立木の大径化を促す調整伐、伐採木の撤去を行い、上流からの土砂の流下を緩和軽減させます。
- ③ ①、②の周辺山腹部において、溪流内に倒木や土砂が流れ出さなくするために立木の根系の発達を促す調整伐を行います。
- ④ 林業研究所において、取組の効果を明らかにするための調査・研究を行います。

災害に強い森林づくり推進事業

三重県農林水産部治山林道課

近年頻発する豪雨等の異常気象の増加をふまえ、流木や土砂の流出による災害発生の恐れのある溪流沿いの森林を対象に、県が流木災害等を軽減するため、①溪流内の危険木の除去、②流木や土砂の流下を緩衝する溪流沿いの森林整備、③倒木や土砂の溪流への流入を抑制する山腹斜面での森林整備など、災害緩衝林の整備を進めます。

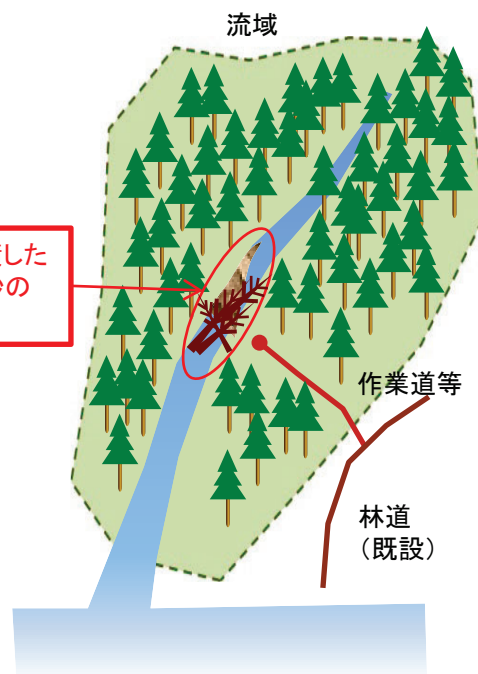
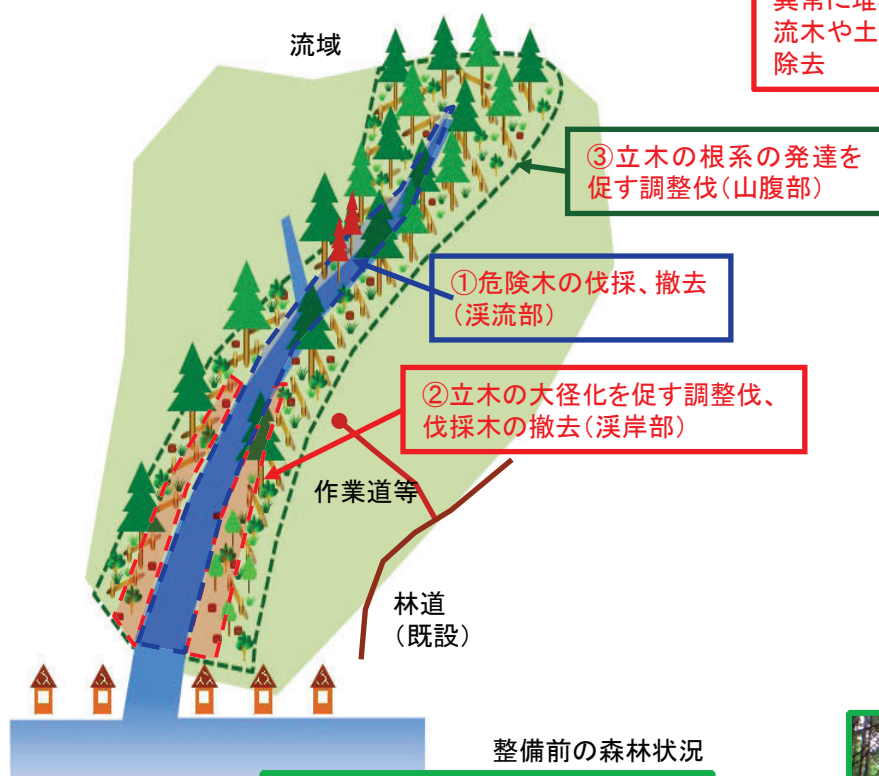
また、豪雨時に流下して下流に被害を与えるおそれのある溪流内に異常に堆積した流木や土砂等について、除去を行います。

I 災害緩衝林整備事業

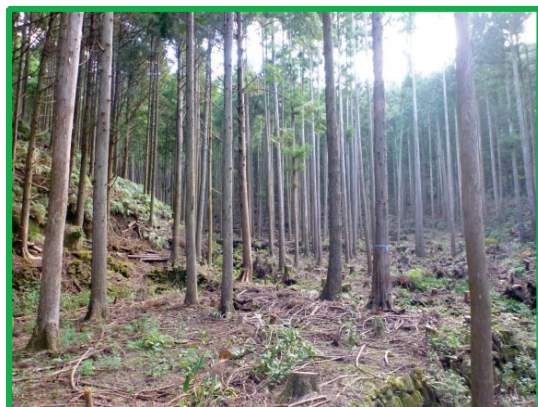
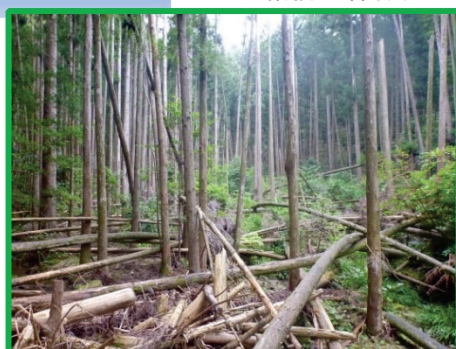
- ①溪流部において、流木になる恐れのある危険木を下流へ流れ出さなくするために「危険木の伐採、撤去」
- ②①の周辺溪岸部において、上流からの土砂の流下を緩和するために「立木の大径化を促す調整伐、伐採木の撤去」
- ③①②の周辺山腹部において、溪流内に土砂が流れ出さなくするために「立木の根系の発達を促す調整伐」

II 土砂・流木緊急除去事業

豪雨等によって流出し人家等に被害を与える恐れのある「異常に堆積した流木や土砂等の除去」



整備後の森林状況 (紀宝町内)



災害緩衝林整備事業

近年頻発する豪雨等の異常気象の増加をふまえ、流木や土砂の流出による災害発生の恐れのある溪流沿いの森林を対象に、流木災害等を軽減するため、①溪流内の危険木の除去、②流木や土砂の流下を緩衝する溪流沿いの森林整備、③倒木や土砂の溪流への流入を抑制する山腹斜面での森林整備など、災害緩衝林の整備を進めます。

〈整備前の森林の状態〉

流出する恐れのある危険木が存在

間伐不足で過密小径な林分

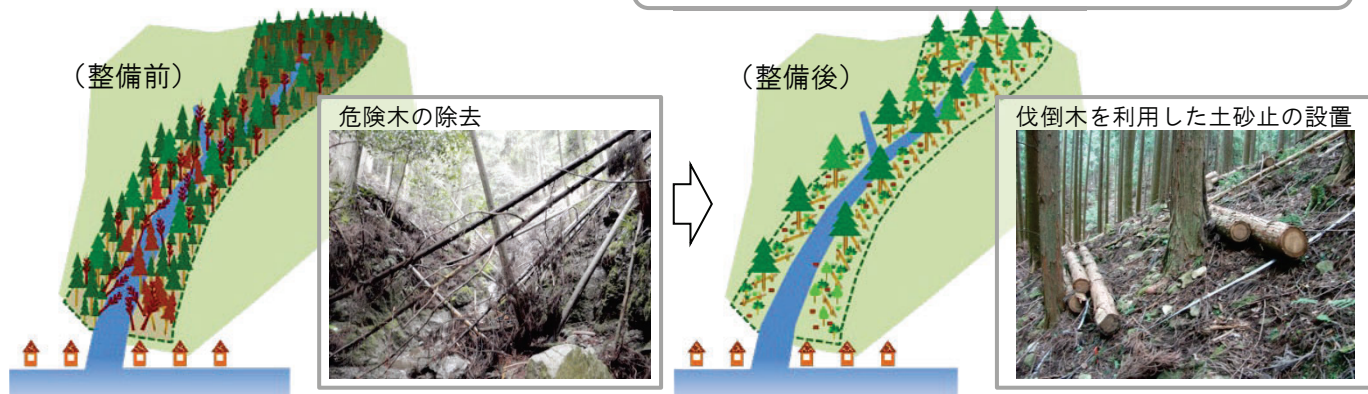
下層植生がみられず表土が流出

〈整備区域〉 青字：立地環境 赤字：整備内容

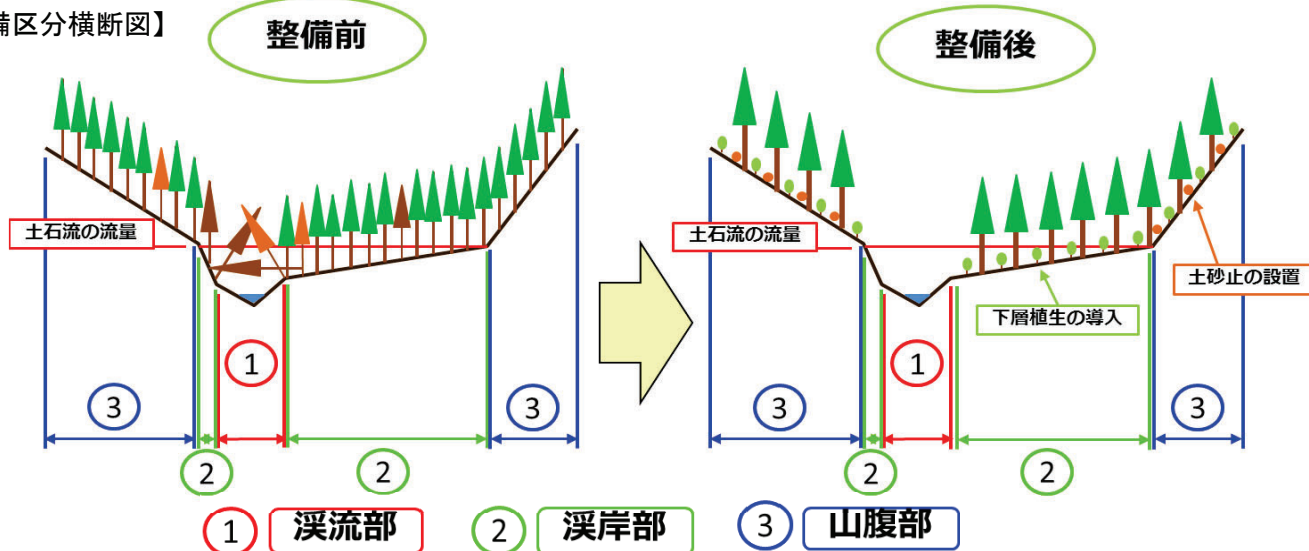
①溪流部で危険木の除去⇒流木発生抑制

②溪岸部で調整伐による立木の大径化促進⇒森林の抵抗力の増加⇒流木・土砂等流下緩衝

③山腹部で調整伐による根系の発達促進、土砂止の設置⇒斜面の安定化⇒流木・土砂等流出抑制



【整備区分横断面図】



(整備後)



令和6年度災害に強い森林づくり推進事業 実施予定箇所表

災害緩衝林整備事業

令和6年12月末現在

NO	施 行 箇 所				危険木除去 (m)	調整伐 (ha)	実施予定額 (千円)	進捗状況
	郡(市)	町	大字	字				
1	(亀山)	-	加太中在家	黒ヶ谷	525.0	2.86	5,700	施工中
2	(亀山)	-	加太中在家	イササカ谷	432.0	3.70	5,900	施工中
3	(亀山)	-	白木町	北河内	300.0	2.49	7,731	施工中
4	(鈴鹿)	-	小岐須町	洞城	166.0	1.90	4,100	施工中
5	(亀山)	-	加太板屋	焼揚	500.0	8.64	12,600	施工中
6	(津)	-	榊原町	河内谷ほか	720.0	5.13	18,610	完了
7	(津)	-	芸濃町河内	黒曾ほか	300.0	1.92	8,030	完了
8	(津)	-	美杉町奥津	須郷谷ほか	450.0	2.97	7,700	施工中
9	(松阪)	-	阿坂町	大谷	150.0	0.80	24,900	施工中
10	(松阪)	-	大阿坂町	井戸谷	800.0	4.59	26,000	施工中
11	(松阪)	-	伊勢寺町	吉後谷	234.0	1.80	15,000	施工中
12	(松阪)	-	小片野町	ハシコ岩	225.0	0.00	750	施工中
13	多気	大台	小切畑	桧木谷	140.0	1.30	9,710	施工中
14	多気	大台	小切畑	楠坂	675.0	3.30	20,000	完了
15	度会	大紀	神原	樋ノ谷	0.0	2.94	6,000	完了
16	度会	大紀	神原	北野	300.0	4.87	12,440	完了
17	度会	南伊勢	内瀬	豆原	870.0	5.45	9,700	完了
18	度会	南伊勢	伊勢路	リュウゼ	1100.0	9.83	12,000	施工中
19	(伊賀)	-	下阿波	宮谷	1375.0	18.15	29,850	施工中
20	(伊賀)	-	上阿波	口一ノ谷	300.0	4.92	5,410	施工中
21	(伊賀)	-	上阿波	井手谷	220.0	1.60	5,500	施工中
22	(伊賀)	-	諸木	滝谷1	1130.0	6.73	13,000	施工中
23	(伊賀)	-	諸木	滝谷2	320.0	3.35	8,000	施工中
24	(伊賀)	-	高尾	津元	310.0	5.16	7,700	施工中
25	北牟婁	紀北	東長島	瀧ノ谷	390.0	1.25	2,541	完了
26	南牟婁	御浜	神木	野田ノ谷	50.0	0.48	10,520	施工中
27	(熊野)	-	育生町長尾	風呂谷	334.0	4.54	4,500	施工中

令和6年度 災害に強い森林づくり推進事業

効果検証にかかる調査・研究事業

(林業研究所)

事業目的と検証内容

3期目(令和6～10年度)には、これまで未実施、あるいは継続検証が必要な下記の項目について効果検証を実施する。

□ 山腹部・・・調整伐による立木の成長促進, 土砂流亡抑制効果に対して

効果検証が必要な事項

- ・土砂止の土砂流亡抑制効果は？・・・項目1
- ・立木の成長は促進されるか？・・・項目2

□ 溪岸部・・・調整伐による立木の成長促進に対して

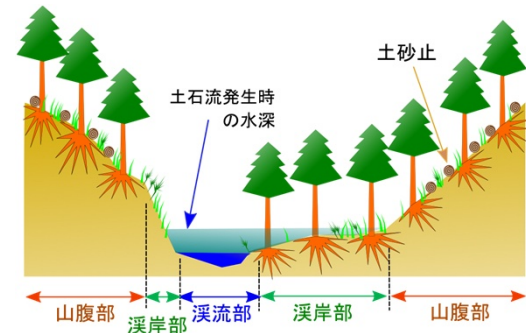
効果検証が必要な事項

- ・立木の成長は促進されるか？・・・項目2

□ 溪流部・・・危険木除去による流木発生抑制効果に対して

効果検証が必要な事項

- ・流木発生抑制効果は長期的に持続するか？・・・項目3



効果検証にかかる調査・研究

項目1 多様な条件下における土砂止設置効果の検証

土砂流亡抑制効果を検証するために

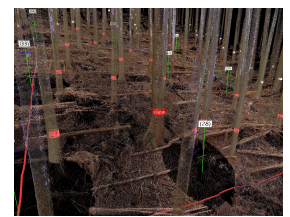
多様な条件下に設置された土砂止の効果発揮状況を調査するとともに、効率的かつ効果的な設置方法を明らかにする。



伐倒木を利用した土砂止の設置



土砂捕捉
土砂止の土砂捕捉量などの多点調査



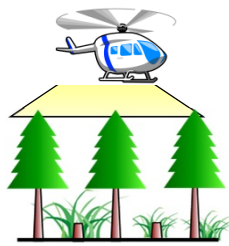
固定試験地での追跡調査

効果の検証と、効率的かつ効果的な設置方法の検討

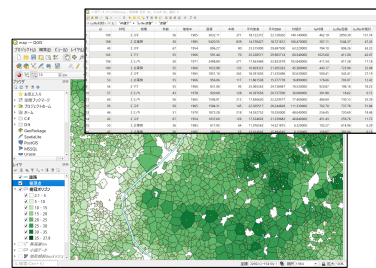
項目2 航空レーザ測量データを活用した目標径級への到達状況の検証

成長促進効果を検証するために

三重県などが実施した航空レーザ測量による森林資源解析データを活用し、過去に調整伐を実施した事業地における目標径級への到達状況を調査する。

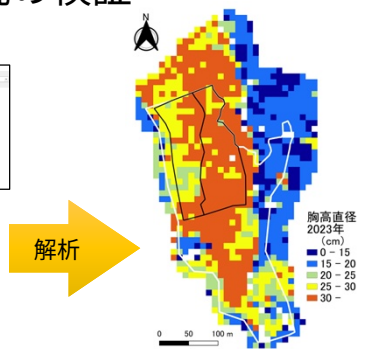


航空レーザ測量



単木単位の樹高, DBHなど推定

航空レーザ測量による森林資源解析(三重県などが実施)



事業地ごとに目標到達状況を解析

項目3 3次元点群測量による流木発生抑制効果の検証

危険木除去による長期的な流木発生抑制効果を検証するために

危険木を除去した溪流における流木など危険木発生状況を3次元点群測量により調査する。



整備前



危険木除去



整備後



その後？

項目1 多様な条件下における土砂止設置効果の検証 (R6～10)

目的

過去に調整伐が行われた山腹部において、様々な条件下に設置された土砂止の効果の発揮状況を検証するとともに、効果的、効率的な土砂止設置方法を明らかにする。

方法

1期目、2期目の効果検証で実施した土砂移動量の調査から、土砂止を設置することで土砂移動量が減少すること、10年程度は効果が持続することを明らかにした。しかし、現場条件、接地状態（土砂止と地面との隙間の状態）によって効果の大きさが異なる可能性があり、これを明らかにすることや設置手間の軽減が課題として残されている。そのため、過去の事業地における多点調査により、多様な条件下において土砂止の接地状態、土砂止背後の土砂捕捉、表土侵食、林床被覆などを調査し、効果の発揮状況を明らかにする（図-1）。また、効果が得られやすい設置条件の解明、効果的、効率的な土砂止設置方法の確立には、効果を発揮し始める時期や土砂止設置が効果を発揮するメカニズムを明らかにする必要があることから、土砂止を設置した直後の事業地に固定試験地を設け、土砂止背後の土砂捕捉や林床被覆の変化などを追跡調査する。

今年度を実施した内容

多点調査の調査地、調査方法の検討を行った。固定試験地については、令和5～6年度に事業が行われた津市、松阪市、多気町、南伊勢町、伊賀市のスギ林4カ所、ヒノキ林4カ所に調査区を設定し（表-1、図-2）、各調査区内で調査対象の土砂止5～6基（延長2.6m～8.7m）を選定して、設定時の土砂止の延長、直径、腐朽度、土砂堆積状況、林床被覆（植生、堆積リター）などを調査した（図-3）。

今年度の今後の予定

過去の事業地における土砂止の効果発揮状況の多点調査を実施する。固定試験地の調査区を亀山市のスギ林1カ所、ヒノキ林1カ所にも設定する。

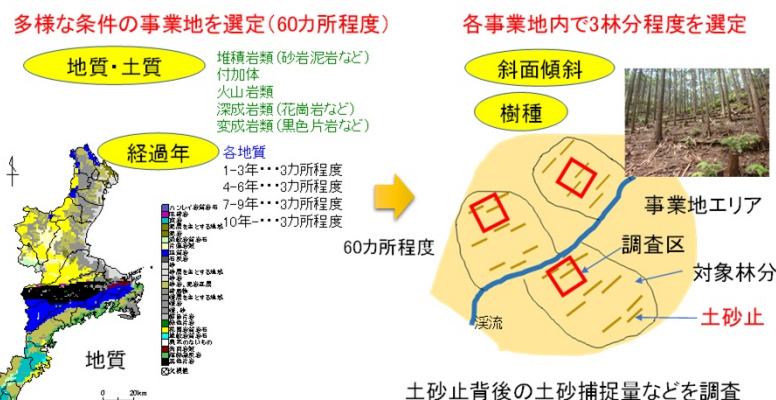


図-1. 土砂止の効果発揮状況の多点調査

表-1. 固定試験地の概況									
試験地	樹種	調査区面積 (m ²)	傾斜 (°)	立木密度 (本/ha)	樹高 (m)	DBH (cm)	対象土砂止 (基)	地質	岩相
津	ヒノキ	176	34	965	20.3	30.7	5	火成岩	花崗閃緑岩
松阪	スギ	182	35.3	659	23.3	38.5	5	火成岩	花崗岩
松阪	ヒノキ	180	15	722	22	30.4	6	火成岩	花崗岩
多気	スギ	165	39.1	969	21	33.8	6	変成岩	泥質片岩
南伊勢	スギ	203	25.9	1,083	17.1	26.5	6	付加体	砂岩泥岩互層
南伊勢	ヒノキ	221	31	1,315	17.7	27.1	6	付加体	砂岩泥岩互層
伊賀	スギ	171	21.7	1,111	22.5	29.5	5	堆積岩	砂岩
伊賀	ヒノキ	139	31	1,438	未測	未測	6	堆積岩	砂岩

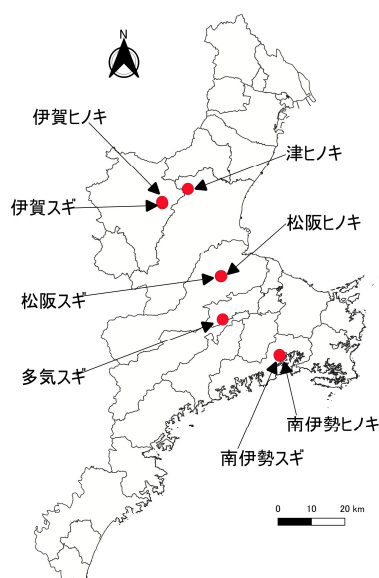


図-2. 固定試験地の位置

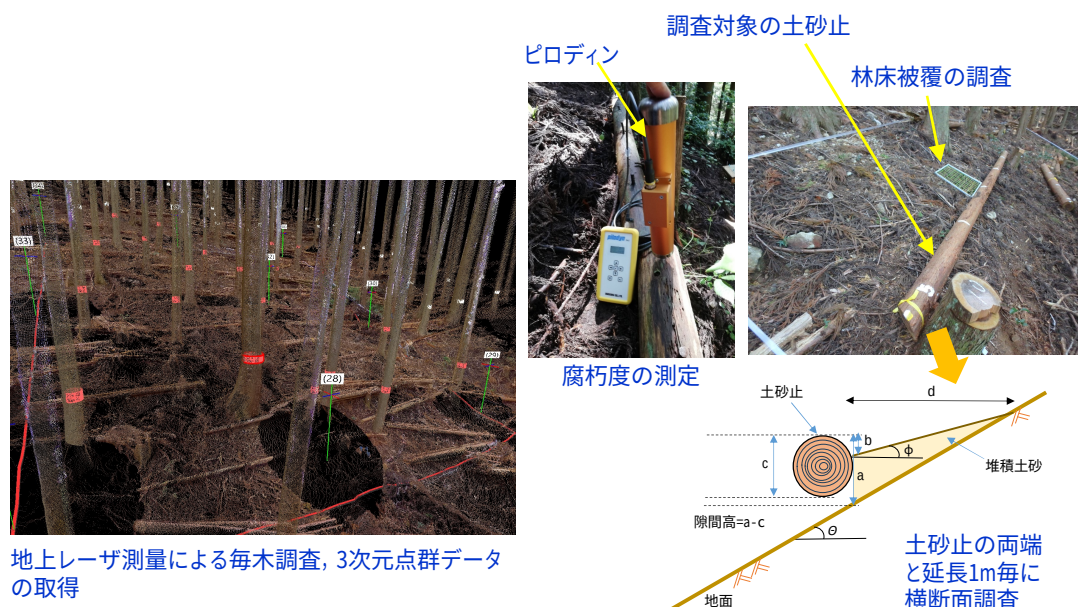


図-3. 固定試験地調査の状況

項目2 航空レーザ測量データを活用した 目標径級への到達状況の検証 (R6～10)

目的

過去に調整伐が行われた事業地の山腹部、溪岸部における目標径級への到達状況を明らかにする。

方法

1期目、2期目の効果検証では、特定のモニタリングエリアにおいて航空レーザ測量、ドローン空撮により定期的なモニタリングを行い、成長量を解析することで広域的な成長傾向を明らかにするとともに現状把握を行うことができた。令和元年度からは三重県などにより県内の大半の森林域で航空レーザ測量（以下、LiDAR測量）が実施され、同時に森林資源解析も行われており、これらのデータを用いることで森林資源の現状把握を行うことができる。そのため、このデータを活用し、事業実施後にLiDAR測量が行われた事業地において、目標胸高直径（以下、DBH）30cmへのLiDAR測量時点での到達状況の検証、マップ化を行うとともに、未到達箇所については、システム収穫表などを用いて今後の成長予測を行い、目標に達するまでに要する年数を明らかにする。

今年度を実施した内容

平成26年度から令和5年度までの事業地305カ所とこれまでのLiDAR測量実施エリアの関係を整理したところ、解析可能な事業地（事業実施後にLiDAR測量）が145カ所、今後解析できる可能性がある事業地（LiDAR測量未実施）80カ所、解析不可（事業実施前にLiDAR測量）が80カ所であった（図-4）。尾鷲管内（尾鷲市、紀北町）における全事業地31カ所の事業地エリアのポリゴンデータを作成した。解析可能な22カ所について、10m×10mメッシュ単位で集計した森林資源解析データを用いて、各事業地の山腹部、溪岸部ごとに目標到達度マップの作成、目標到達率（目標DBHに達したメッシュ割合）の解析を行った（表-2、図-5）。到達率の平均値は溪岸部32%、山腹部24%であった（表-2）。

今年度の今後の予定

引き続き、事業地エリアのポリゴンデータを作成し、マップ作成と解析を行う。未到達箇所の到達年予測は次年度以降に名古屋大学との共同研究で実施する予定である。

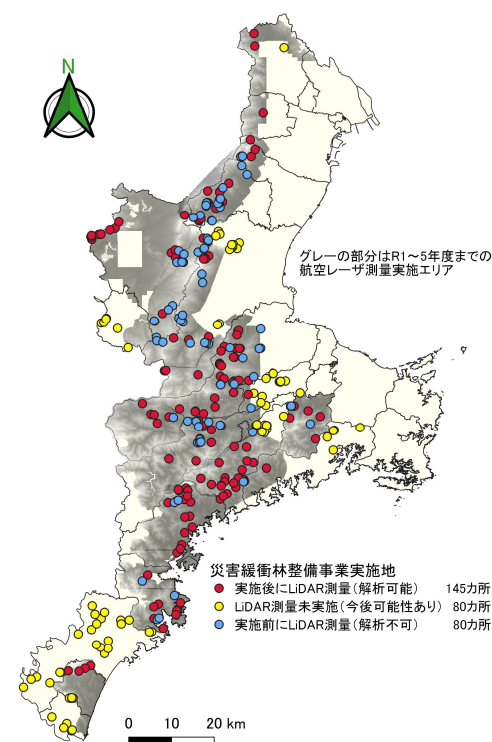


図-4. 平成26年度から令和5年度までの事業地とLiDAR測量実施エリアの関係

表-2. 尾鷲管内の22カ所の事業地における目標到達率（目標DBHに達したメッシュ割合）

区分	平均	最低	最高
溪岸部	31.9%	0.0%	63.6%
山腹部	24.2%	2.5%	48.6%

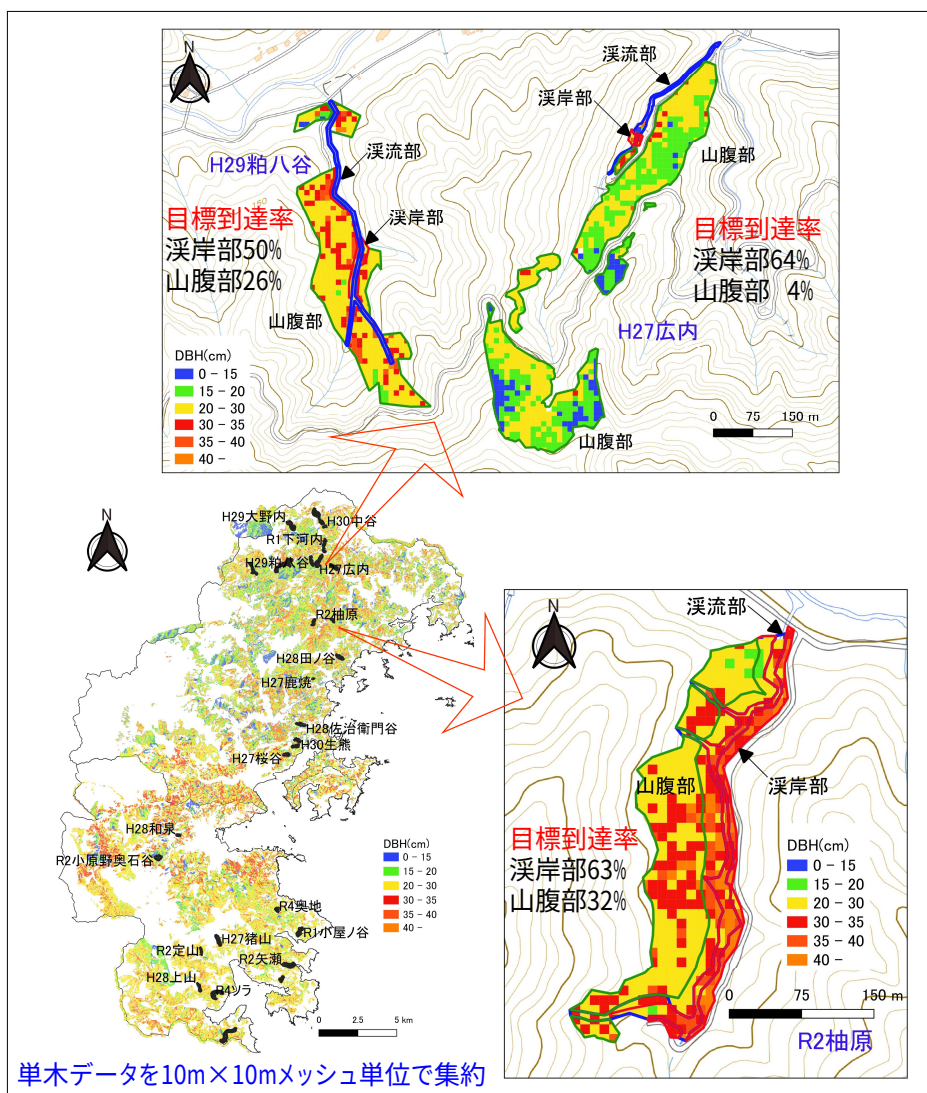


図-5. 尾鷲管内の解析結果から作成した目標到達度マップの例

災害に強い森林づくり推進事業のPR

1 県庁舎等におけるパネル展示

県庁舎のホール等において、施工前後の写真や事業概要を説明したパネル展示を行っています。

みえ森と緑の県民税市町交付金事業のPRと同時に行うことで、みえ森と緑の県民税の趣旨が伝わるように工夫しています。

また、来場者が親しみを感じられるよう、展示方法を工夫しています。



津市



松阪市



伊賀市



尾鷲市

災害に強い森林づくり推進事業のPR

2 施工現場における掲示

災害に強い森林づくり推進事業に「みえ森と緑の県民税」を活用していることを周知するため、施工現場において、のぼり旗や看板の設置などを行っています。



事業実施前に、施工現場付近に「のぼり旗」を設置



事業実施前に、施工現場付近に「のぼり旗」を設置



工事看板に「ロゴマーク」とみえ森と緑の県民税を活用していることを記載

災害に強い森林づくり推進事業のPR

3 回覧等による事業実施のお知らせ

事業実施をお知らせする回覧板に、施工前後の写真を掲載するとともにロゴマークを配置するなど、みえ森と緑の県民税を活用した工事であることと、事業内容をわかりやすくPRしています。

工事のお知らせ

みえ 森と緑 の県民税

森林づくりを県民みんなの力で！

平素は、三重県行政にご理解、ご協力を賜りお礼申し上げます。
この度は、下記の箇所において、災害緩衝林整備事業を実施することとなりました。
工事中は、ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

工事名：令和6年度災害緩衝林整備事業第津-3号工事（須郷谷ほか）
工事期間：令和6年11月5日（火）～令和7年2月25日（火）
工事内容：危険木除去、森林整備
施工場所：津市美杉町奥津字須郷谷ほか 地内（別添位置図）

【災害緩衝林整備事業】
近年頻発する豪雨等の異常気象の増加をふまえ、流木や土砂の流出による災害発生の恐れのある溪流沿いの森林を対象に、「みえ森と緑の県民税」を活用して「災害緩衝林整備事業」を行っています。
危険木の除去や、森林整備などを進め、流木災害等を軽減します。

【施業のイメージ】

（整備前）

（整備後）

【工事に関する問い合わせ先】

発注者：三重県津農林水産事務所 森林・林業室
森林保全課
TEL：059-223-5085
受注者：中勢森林組合
TEL：059-262-3020

事業実施前は、イメージ図や、過去の事例写真を載せるなど、施工後がイメージしやすい記載に努めています。

③ 災害に強い森林再生事業

担当課：森林・林業経営課

基本方針：① 災害に強い森林づくり

対策区分：① 土砂や流木による被害を出さない森林づくり

1 事業の目的

植栽や下刈り、鳥獣害防止施設等の整備を支援することにより、森林を早期に回復することを目的とする。

2 事業の必要性

シカの食害や気象害等による被害森林が増加すると、森林の有する土砂流出防止等の公益的機能の低下が懸念されることから、被害森林等の成林に向けた取組を支援することで、公益的機能を早期かつ確実に回復させ、災害に強い森林づくりをめざします。

3 事業の内容

(1) 森林防災機能回復支援事業（985千円）

早期に森林へ回復させるために必要な人工造林、下刈り、鳥獣害防止施設等の整備

- ・シカの食害や気象害等による被害森林の植栽（獣害防護柵の設置を含む）

1.73ha(予定)：大紀町

(2) 森林再生力強化対策事業（44,015千円）

野生鳥獣の移動制御等を図るために実施する鳥獣害防止施設等の整備、補修

- ・獣害防護柵の設置

54,276m(予定)：津市、松阪市、大台町、大紀町、尾鷲市、紀北町、熊野市

- ・防護チューブ、防護ネットの設置

11,935本(予定)：津市、松阪市、大台町



森林への回復に向けた植栽



獣害防護柵の設置

④ 森林情報基盤整備事業

担当課：森林・林業経営課

基本方針：① 災害に強い森林づくり

対策区分：① 土砂や流木による被害を出さない森林づくり

1 事業の目的

航空レーザ測量を実施して、詳細な森林資源情報を把握することで、効率的な森林管理を促進するとともに、精度の高い3次元地形データを取得して、災害発生の危険性の高い地域等を客観的に把握することで、災害に強い森林づくりを効果的に進めます。

また、航空レーザ測量によって把握できる尾根、谷等の詳細な地形や林相界等の情報を森林クラウドにより市町と共有することで、市町による森林の適正な管理の実行につなげます。

2 事業の必要性

緊急に整備が必要な森林や、山地災害や流木被害の発生の恐れのある森林を効率的に把握し、災害に強い森林づくりを着実に進めるためには、航空レーザ測量を実施して、樹種、樹高、立木密度、材積等の詳細な森林資源情報や、尾根、谷等の精度の高い微細な地形情報等を効果的に取得する必要があります。

また、所有者の関心の低い森林や、境界が不明な森林等において、手つかずの状態になることを防止するため、森林境界の明確化につながる情報の把握に努める必要があります。

3 事業の内容

航空レーザ測量の実施によるデータ取得と森林資源解析により、早急に整備が必要な森林の抽出等を行います。

(1) 航空レーザ測量 ※レーザ照射点密度 4点/m²

- ・三次元計測データ、グリッドデータ、写真地図データ、等高線データ等を作成

(2) 森林資源解析

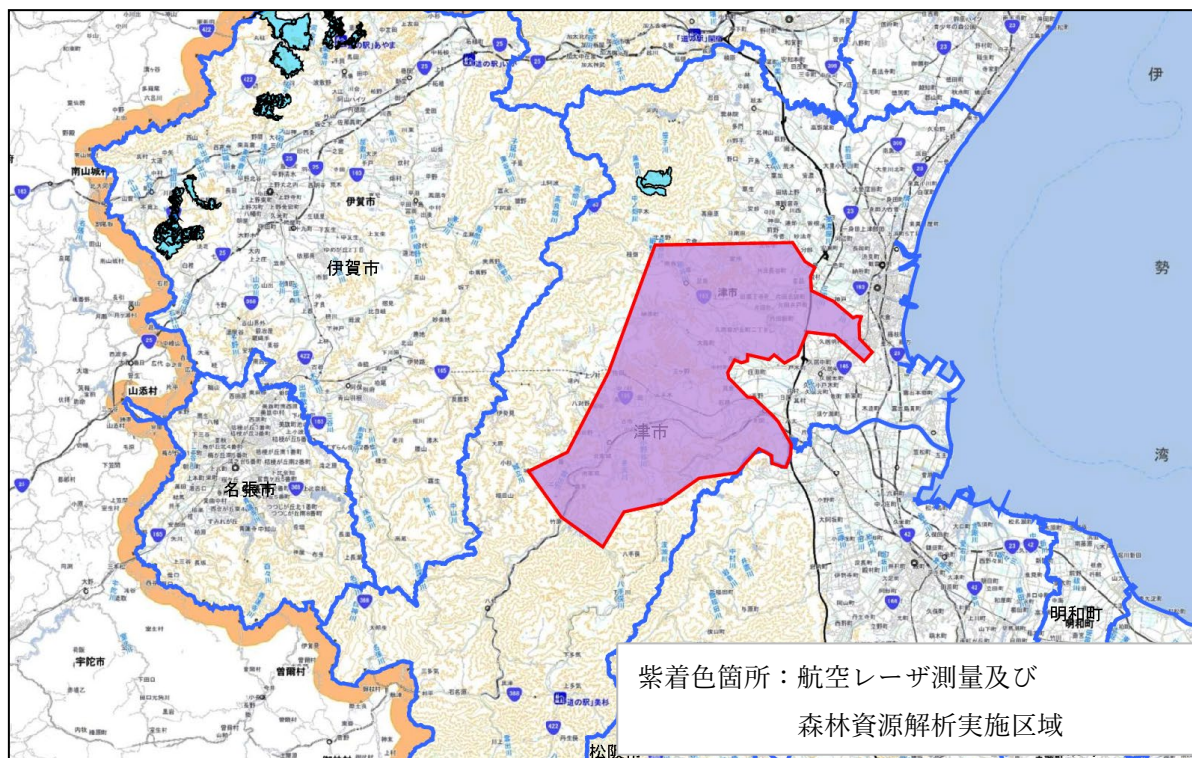
- ・林相区分データ作成
- ・単木解析（樹木本数、単木毎の位置、樹高、樹冠幅、樹冠長、胸高直径、材積等の把握）
- ・林分解析（平均胸高直径、平均樹冠長、総材積、平均形状比、平均樹高、立木本数密度、収量比数、相対幹距比等の算出）

(3) 成果品：森林GISの主題図として、傾斜区分図、立体地形表現図、森林資源解析図を作成

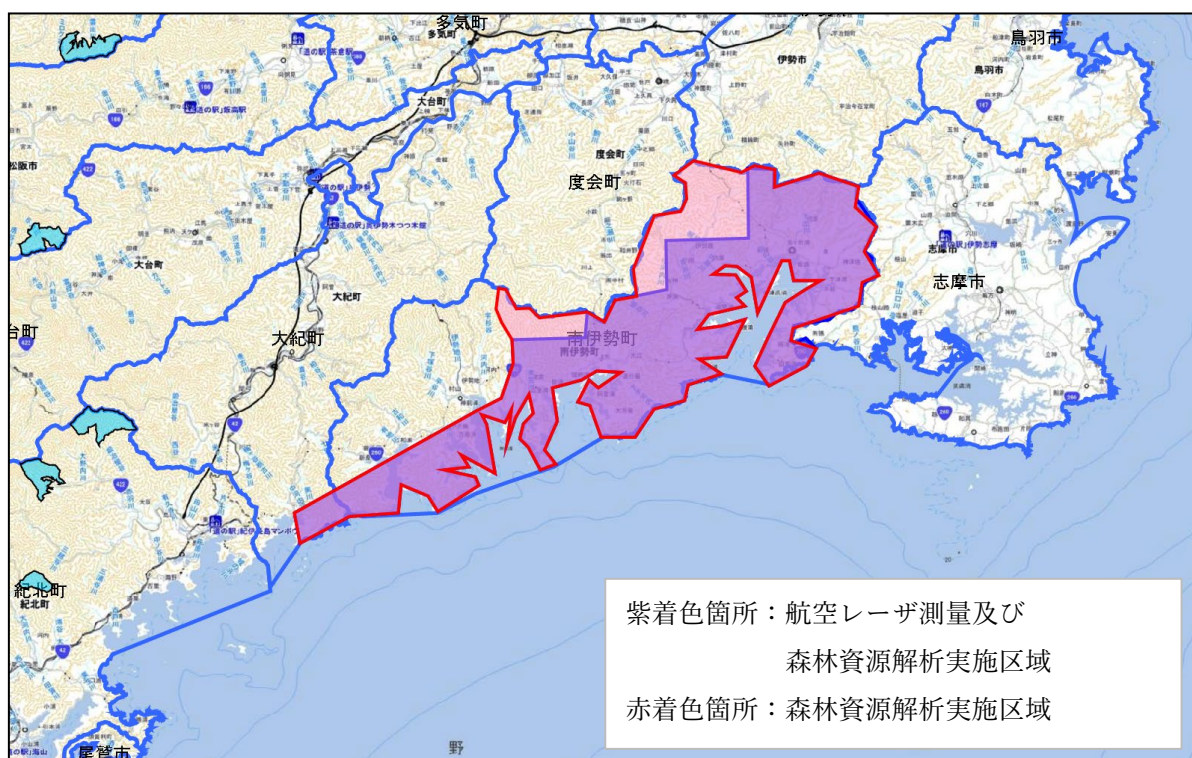
令和6年度事業計画

事業実施面積	予算額（千円）	事業実施市町
航空レーザ測量 約320km ² （32,043ha） 森林資源解析 約422km ² （42,198ha）	100,000	津市、大紀町、南伊勢町、 伊賀市、名張市

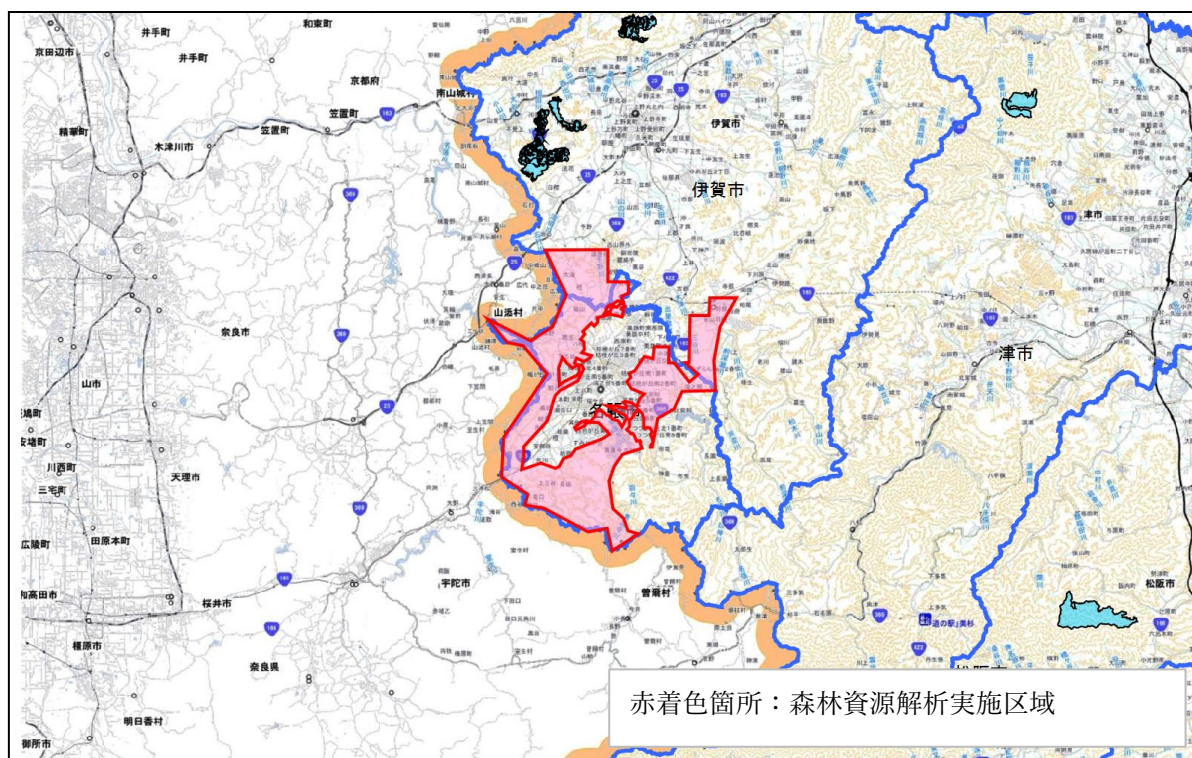
○津市 事業実施区域



○大紀町、南伊勢町 事業実施区域



○伊賀市、名張市 事業実施区域



○みえ森林・林業アカデミーにおける講義について

市町職員向け及び林業事業体職員向けに、取得した森林資源解析データの活用方法に関する講義を実施しました。

日時：令和6年5月14日(火)（市町職員向け） ※13名参加

令和6年6月25日(火)（林業事業体職員向け） ※3名参加

内容：取得した森林資源解析データを登載している森林クラウドを使用し、各種データの紹介及びデータの活用例について説明

⑤ーア みえ森林教育ビジョン推進事業

担当課：林業研究所 普及・森林教育課

基本方針：② 県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分：③ 森を育む人づくり

1 事業の目的

「森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育」、「森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育」、「自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育」に取り組むことで、「みえ森林教育ビジョン」を実現し、「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進します。

2 令和6年度事業の概要

みえ森林教育ビジョンを実現するため、森林教育の裾野を広げ、子どもから大人まで一貫した教育体系を構築し、主体的・対話的で深い学びの充実を図るためのイベントや講座の開催、みえ森林ワークブックの配布などを実施します。

【具体的な取組】

(1) 森林教育イベントの開催

- ① 第3回みえ森林教育シンポジウム
- ② 第11回みえの森フォトコンテスト
- ③ こども森の写真教室
- ④ みえの森フォトコンテスト入賞作品展示

(2) 森林教育プログラムの実践

- ① 子ども向け講座【ジュニアフォレスター育成講座】
- ② 企業向け講座【みえ森林教育企業講座 SDG s 時代の企業における森林とのつきあい方について考えるVol.4】
- ③ 幼児教育関係者向け支援【みえ森林教育アドバイザー派遣】
- ④ 小学生向け冊子の発行
 - (A) 副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」
 - (B) みえ森林ワークブック

(1) 森林教育イベントの開催

①【第3回みえ森林教育シンポジウム】

目的	森林教育に関心のある方から、実際に森林教育に取り組む実践者、また、子どもから大人など幅広い立場の県民が、ワークショップに参加し、森林教育について学び、意見を交わし、考える機会を設けるほか、トークセッションや講演会を通じて、森林教育に対する理解を深め、地域と連携した森林教育を推進することを目的に開催する「第3回みえ森林教育シンポジウム」の準備を進めています。
日時	令和7年2月1日(土) 9時30分から16時30分 (予定)
場所	三重県総合文化センター 男女共同参画棟 (予定)
対象	保育関係者、小学校等の先生、森林教育指導者 等
計画内容	第1部 ワークショップ 【ワークショップ】 幼児教育・保育セッション 対象：幼児保育関係者など 【ワークショップ】 学校教育セッション 対象：学校関係者、森林教育指導者など 第2部 ステージプレゼンテーション ・第11回みえの森フォトコンテスト表彰式 ・基調講演会 ・トークセッション



第2回みえ森林教育シンポジウムの講演会の様子

第 3 回

みえ森林教育シンポジウム



<メインテーマ>

子どもといっしょに森と出会い、森から学ぶ魅力

2025年2月1日(土) 9:30~16:30

場所：三重県総合文化センター 男女共同参画棟

主催：三重県

子どもたちとともに、身近な木・森・自然から学ぶことの魅力を考えます



～基調講演会～

いのち溢れる森が教えてくれること
～C.W.ニコルが遺した子どもたちの未来～

一般財団法人
C.W.ニコル・アフンの森財団
専務理事 野口 理佐子 氏

C.Wニコル・アフンの森財団
専務理事の野口理佐子様をお招きし、
アフンの森での38年にわたる
森林再生の活動を基に、
森と私たちとのさまざまなつながりや、子どもたちが森の中で過ごすことの魅力について
ご講演いただきます。



【お問い合わせ先】 三重県林業研究所普及・森林教育課
電話 059-262-5352 FAX 059-262-0960
メール miefa2@pref.mie.lg.jp



みえ森と緑の県民税

この取組には「みえ森と緑の県民税」が活用されています。

プログラム

※それぞれに定員がございます。事前に参加申込フォームよりお申し込みください。
募集定員になり次第、募集を締め切ります。

<第1部 ワークショップ> [2Fセミナー室A、3Fセミナー室C]

幼児教育・保育セッション

時間：9:30～12:00

会場：2Fセミナー室A

定員：50名（先着順）



参加申込フォーム

テーマ：森と出会い、森で遊び、森で育つ

<モデレーター>宮里 暁美氏(お茶の水女子大学 特任教授)



文京区立お茶の水女子大学こども園園長等を経て、2021年4月よりお茶の水女子大学アカデミック・プロダクション寄付講座教授。子どもたちのごくそばで過ごし、子どもたちの小さな動きに目をとめ、保育について思いをめぐらしている。

<アドバイザー>

嘉成 永慈氏(森の風こども園 副園長、森の風しぜん学校 代表)

学校教育セッション

時間：9:30～12:00

会場：3Fセミナー室C

定員：50名（先着順）



参加申込フォーム

テーマ：学校と地域のより良い連携に向けて

<モデレーター>高田 研氏(地球温暖化防止全国ネット理事長)



小中公立学校教員を務めた後、岐阜県立森林文化アカデミーを経て、都留文科大学に着任、2023年退職。林野庁の森林環境教育の委員会において、その定義作りから普及啓発までを行ったほか、徳島県内の複数高校で15年間、参加型の授業改革支援を続けている。

<アドバイザー>

佐藤 洋氏(山梨県都留市ネイチャーセンター博物館 学芸員)

谷本 博史氏(三重県教育委員会事務局 小中学校教育課 班長)

※ワークショップでは、県内の事例発表のあと、参加者の皆様を交えた意見交換を行います。

<第2部 ステージプレゼンテーション> [1F多目的ホール]

表彰式、基調講演会、トークセッション

13:00～ 開会

13:05～ 第11回みえの森フォトコンテスト表彰式

13:25～ 基調講演会「いのち溢れる森が教えてくれること ～C.W.ニコルが遺した子どもたちの未来～」
一般財団法人C.W.ニコル・アフンの森財団 専務理事 野口 理佐子氏



大学卒業後NTTに入社。企画広報業務を経て、大規模な公共事業開発が進む中、小笠原空港建設問題をきっかけに環境問題に目覚め、1994年に環境問題の解決を仕事にすることをモットーに有限会社カルティベイトカンパニーを設立。環境プランニング、コーディネート業務を行う中、C.W.ニコルと出会う。ニコルが個人で森の再生を行っていたアフンの森を永遠の森にするための相談を受け、2002年財団法人C.W.ニコル・アフンの森財団の設立業務を手がける。以後運営理事として活動。2011年より理事・事務局長、2020年より専務理事。麻布大学生命・環境科学部環境科学科 非常勤講師(2005年～2016年)。

14:45～ トークセッション「子どもといっしょに森と出会い、森から学ぶ魅力」

<パネリスト>

大西 義孝氏(津市立家城小学校 教頭)



公立中学校教諭、津市教育委員会事務局人権教育課、津市立川口小学校教頭を経て現在に至る。教頭職をしながら、昨年度から5年生の社会科も担当。日々、授業改革と仲間づくりの観点から、「子どもたちが主体となって考える学び」を研究している。

佐藤 洋氏(山梨県都留市ネイチャーセンター博物館 学芸員)



県内外の幼児期や青年期の子どもたちを森に招き入れ、年齢や課題にあわせた「生きる力」を育むプログラムを展開。森や木々の見立てから伐採、搬出、製材など、プロセス重視の活動を得意とする。保育者など大人向けの研修も幅広く企画・実践している。

<コーディネーター>長野 麻子氏(株式会社モリアゲ 代表)



東京大学文学部フランス文学科卒、1994年に農林水産省に入省。2018年から3年間、林野庁木材利用課長として「ウッド・チェンジ」を各地で呼び続ける。豊かな森を次代につなぐことを勝手に天命と感じ、2022年6月に早期退職。同年8月に日本の森を盛り上げる株式会社モリアゲを設立し、森林業コンサルタントとして全国の森をモリアゲ中。

16:30 閉会

嘉成 永慈氏(森の風こども園 副園長、森の風しぜん学校 代表)



森の風こども園で年長児を担当。休日は小学生のプログラム「森の風しぜん学校」で山、里、海の様々なフィールドで活動。2016年から野外体験保育アドバイザーとして野外保育を普及、現在は森林教育アドバイザーとして子どもと自然を繋ぐ保育を実践している。

堀内 楓子氏(叶林業合名会社、LEAFローカルインストラクター)



2012年に家業である叶林業合名会社(松阪市飯高町)に就業。2016年より松阪市内の小学校を中心に森林教育策、出前授業、クラフト等、幅広く森林教育に取り組む。五感を使って体験することを大切に、森林や木に親しみを感じてもらえるよう内容を工夫している。

定員：300名
(先着順)



参加申込フォーム

※予告なく内容を変更する場合があります。

※第1部、第2部ともに事前申込が必要ですが、第2部は、席に余裕がある場合は当日参加も可能です。

②【第11回みえの森フォトコンテスト】

目的	写真撮影を通じて森林や木に親しみ、その大切さを知っていただくことを目的に、「三重の森林」をテーマにして「第11回みえの森フォトコンテスト」を開催しました。
期間	令和6年6月20日(木)から10月31日(木)まで
場所	県内各地
対象	・県内に在住または通学・通園（所）等している18歳以下の方 応募数 小学生以下の部 39名 82点 中学生以上の部 95名 164点 合計 134名 246点
内容	・小学生以下の部と中学生以上の部の2部門を設け、審査会において、それぞれ、最優秀賞、優秀賞及び入選作品を選出します。

三重県

「三重の森林」の写真
作品募集中!

カメラを持って森へ行こう!

詳細はHPをチェック!!

第11回
みえの森
フォトコンテスト

③【こども森の写真教室】

目的	カメラを通して森や自然のおもしろさや豊かさを発見してもらうことを目的に、小中学生とその家族を対象に「こども森の写真教室」を開催しました。
期間	令和6年7月28日(土) 9:30～12:30
場所	三重県総合博物館 (MieMu)
対象	・県内に在住または通学している小中学生とその家族 5組11名の親子が参加（申し込みは9組21名）
内容	・プロの写真家から写真の撮り方のレクチャーを受けた後、ミュージアムフィールドの森に出かけ森の姿を子どもたちが撮影しました。その後、撮影した写真を上映し、全員で鑑賞しながらアドバイスをもらいました。



写真家の講師からのレクチャーの様子



ミュージアムフィールドでの撮影の様子

家族で楽しむ



こども木々の写真教室

参加
無料

令和6年7月28日(日) 9:30~12:30

場所：三重県総合博物館 (MieMu)

プロの写真家のレクチャーを受けて
ミュージアムフィールドの森へ行こう！



カメラの構え方の練習



ミュージアムフィールド内での撮影



ミュージアムフィールド内での撮影



過去のみえの森フォトコンテストの
入賞作品をつかったレクチャー

写真家 松原 豊 さん

1967年三重県生まれ。三重県津市美里町在住写真家。専門学校名古屋ビジュアル・アカデミー写真学科卒業後撮影アシスタントを経て独立。2004年津市美里町に移住。雑誌や企業広報誌などの撮影を担当している。作品としては大判カメラを使用して平成の三重県内農山漁村を記録した「村の記憶」や三重県内の銭湯を記録したシリーズ「Local public bath "Sento"」などの代表作品がある。

2016年在住地に写真専門ギャラリー「gallery0369」と「写真好學研究所」、2023年には「Lobo0369」を開設。写真表現の可能性を考えていく場所づくりにも取り組んでいる。最近では海外交流として、台湾などでの写真展示にも積極的に参加している。

写真好學研究所所長、国立鈴鹿工業高等専門学校非常勤講師、三重県高校写真連盟顧問、三重県生涯学習センター学校向け文化体験プログラム講師、京都芸術大学非常勤講師
ホームページ <https://www.matsubara-yutaka.com>



みえ 森 と 緑 の 県 民 税

主催：三重県

協力：写真好學研究所



④【みえの森フォトコンテスト入賞作品展示】

目的	「三重の森林」をテーマに実施したみえの森フォトコンテストの入賞作品を、公共施設や商業施設などで展示し、子どもたちの視点で捉えた三重の森林の姿をたくさんの方に見ていただくとともに、森林や木の美しさや親しみを感じ、森を育む心を養います。	
市町	展示場所	展示期間
松阪市	三重県立みえこどもの城	R6. 5. 14～5. 21
鳥羽市	鳥羽マリンターミナル	R6. 6. 5～6. 12
津市	三重県総合博物館（MieMu）	R6. 7. 26～8. 1
四日市市	イオンモール四日市北	R6. 8. 15～8. 26
桑名市	イオンモール桑名	R6. 9. 17～R6. 9. 26
志摩市	阿児アリーナ（森林フェスタ）	R6. 10. 5
四日市市	四日市ドーム（住まいと暮らしの総合フェア）	R6. 10. 12～10. 13
東員町	イオンモール東員	R6. 10. 22～10. 31
松阪市	三重県立みえこどもの城	R6. 11. 27～12. 3
津市	林業研究所（一般公開）	R6. 12. 7
津市	三重県総合文化センター （みえ森林教育シンポジウム）	R7. 2. 1（予定）



イオンモール桑名における展示の様子



森林フェスタ（阿児アリーナ）における
展示の様子

(2) 森林教育プログラムの実践

① 子ども向け講座

【ジュニアフォレスター育成講座】

目的	森林や自然、野外活動等に関心のある子どもたちの学びの意欲をさらに高揚し、森林・林業及び持続可能な社会への理解を促進するとともに、子供たちの創意工夫や適応力、寛容さなどを養い、「生きる力」を育むことを目的に講座を実施しました。
開催日	令和6年12月14日、21日～22日 全3日間
場所	四日市市少年自然の家
対象	小学校3年生から5年生8名
計画内容	1回目： ・みえの森林・林業の姿を学ぶ講座 ・森の観察 ・里山保全活動 ・ワーク：元気な森はどんな森？ 2回目： ・セーザイゲーム（製材・木取りを学ぶ） ・木工体験 ・ワーク：木を伐ることはいいこと？悪いこと？ 3回目： ・箸づくり ・焚き付け体験・野外炊事 ・ワーク：元気な森のためにできることを考える



里山保全活動で除伐をしている様子



セーザイゲームの様子

～森林の価値を考えよう!～

ジュニアフォレスター育成講座

2024年

12月14日(土)、12月21日(土)～22日(日)

※ 12月21日～22日は宿泊を伴うプログラムです。
参加決定後、保護者の同意書を提出していただきます。



四日市市少年自然の家 (四日市市水沢町字大谷1423の2 Tel.059-329-3210)



フォレスターとは、森林を守り育てて活用するプロフェッショナル。

森林の生き物を観察したり、里山の手入れをしたり、

丸太を製材するゲームや、木を使った道具づくり、

そして火おこしなどの体験を通して、

きみもフォレスターになろう!

森林や木材のみりよくやはたらきについて、

学び・体感して考える3日間です!



※写真は、
令和3年度立
川市少年自然の家で
開催した際の様子で、
イメージです。

定員 16名程度

※ 先着順とし定員になり次第、受付を終了します。

※ 応募人数が8名未満の場合は中止とします。

対象 全3日間参加できる三重県内の小学4～6年生

※ お子様だけのプログラムです。

参加費 3,710円 (内訳: 21日昼食代540円、夕食代880円、
22日朝食代510円、昼食代520円、宿泊費1,260円)

※ 参加費は、12月21日(土)の朝、受付にて徴収いたします。

※ 参加人数などにより参加費が変更となる場合があります。

募集締切 令和6年12月2日(月)正午

申込方法 専用申込フォームによる

【専用申込フォームの二次元コード】



※ ご提供いただきました個人情報は三重県個人情報保護条例に基づき適切に管理します。



主催：三重県林業研究所、協力：四日市市少年自然の家

3日間のプログラム

第1日目：12月14日(土)

- 9:00 受付(分館)
 9:30 開講式・オリエンテーション
 三重の森林の姿と森のはたらき
 森の観察
 (昼食：お弁当)
 里山保全活動
 ふりかえり
 16:00 解散



みえ森林教育の取組

三重県では、「みえ森林教育ビジョン」に基づき、森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会をつくるために、誰もが森林や木に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人に育つことを促す「みえ森林教育」の取組を進めています。

今回の講座では、小学生の皆さんに、森林での体験や学びを通して、仲間と楽しみながら森林の価値を探ることで、様々な気づきを得て、森林・林業・木への理解や関心を深めてもらいたいと考えます。

※写真は、昨年三重県立
熊野少年自然の家で
開催した際の様子で、
イメージです。

第2日目：12月21日(土)

- 9:00 受付(本館)
 9:30 オリエンテーション
 セーザイゲーム
 (昼食：四日市市少年自然の家)
 木工体験(ちいさな机づくり)
 ワークショップ
 (夕食：四日市市少年自然の家)
 キャンプファイヤー
 (入浴)
 21:00 就寝(四日市市少年自然の家 泊)



第3日目：12月22日(日)

- 6:30 起床
 (朝食・部屋の片付け)
 9:00 木工体験(箸づくり)
 焚き付け体験
 野外炊事
 (昼食：四日市市少年自然の家)
 ワークショップ
 (森の価値を考えよう)
 閉講式(修了証授与)
 14:30 解散



※天候等により日程及びプログラムの内容を変更する場合があります。

参加にあたっての注意事項

- ・野外活動に適した服装及び靴で、帽子、上着(防寒着)、筆記用具(ノート含む)、水筒をご持参ください。
- ・第2日目～第3日目は宿泊を伴います。パジャマ、洗面道具、バスタオル等各自必要なものをご持参ください。
- ・けがや事故が発生した場合は、応急処置を行います。その補償につきましては、加入する保険の範囲内で行いますので、ご了承ください。

問合せ先：三重県林業研究所普及・森林教育課

〒515-2602 津市白山町二本木3769-1

Tel 059-262-5352 fax 059-262-0960 e-mail: miefa2@pref.mie.lg.jp

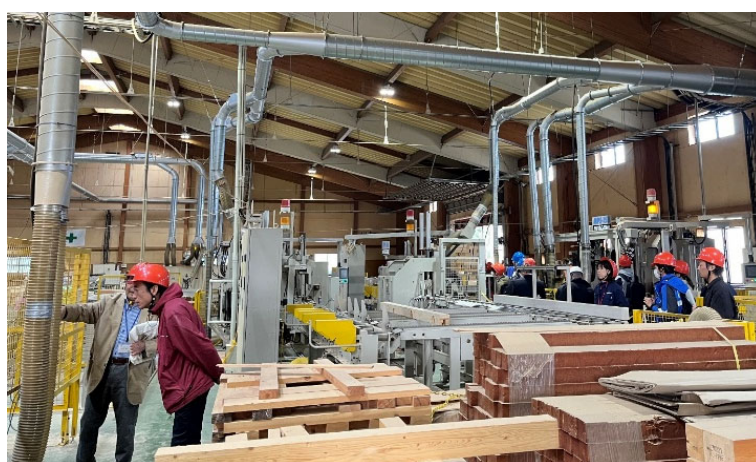


② 企業向け講座【みえ森林教育 企業講座 SDG s 時代の企業における森林とのつきあい方について考える Vol. 4】

目的	企業（事業者）を対象に、適切な森林管理をしてきた林業地を見学することで、森林を知る体験をし、森林の現状や森林を活用することの意義などについて学び、企業が森林との結びつきやビジネスチャンスなどについて考える機会を創出することを目的に、講座を実施しました。
開催日	令和6年10月4日、11月8日（全2日間）
場所	紀北町（速水林業大田賀山林）、松阪市（松阪ウッドピア）
対象	参加人数 20名 三重県内に本社、または事業所を置かれている企業の方（林業関係事業体を除く）
計画内容	総合講師：三重大学リカレント教育センター教授 青木 雅生 氏 1回目：10月4日 場所：速水林業大田賀山林 講師：速水林業 速水 亨 氏 2回目：11月8日 場所：ウッドピア松阪 講師：松阪木材(株) 久保 寛 氏 グリーンウッドタクミ協同組合 浦田 理 氏 三重県木造住宅協同組合 森下 隆生 氏



速水氏所有の山林を視察している様子



製材工場を視察している様子

③ 幼児教育関係者向け支援【みえ森林教育アドバイザー派遣】

目的	森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人づくりを目的とした「みえ森林教育」を推進するため、未就学児を対象とした保育、幼児教育を行う現場での森林教育の取組を支援することを目的に、森林教育アドバイザーを派遣しています。
日時	令和6年9月から令和7年2月まで
対象	森林を活用した保育に関心のある、県内の保育所、幼稚園及び認定こども園や市町 ・四日市市立坂部保育園 ・社会福祉法人明健福祉会 たいりん保育園（菰野町） ・社会福祉法人ひよこ会 ことり保育園（四日市市）
計画内容	アドバイザー：認定こども園森の風こども園 副園長 嘉成永慈氏 ・アドバイザー派遣の要望があった保育施設等への聞き取りと、保育指導、ふりかえりを3回程度実施 ・必要に応じて保育士との勉強会を開催

④ 小学生向け冊子の発行

(A) 副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」

目的	「みえ森林教育ビジョン」の趣旨に則り、森林教育の裾野の拡大のための取組として、児童が三重県の森林について知識を深め、関心を持つきっかけとなることを目的に、小学5年生の社会科に対応した副読本を発行・配布しました。
時期	令和6年7月発行・配布
対象	県内の小学校に通う小学5年生の児童

(B) みえ森林ワークブックの発行・配布

目的	「みえ森林教育ビジョン」の趣旨に則り、主体的・対話的な学びを取り入れた教育手法の体系化を図ることを目的に、小学校の学習指導要領に適合した令和6年度版「みえ森林ワークブック」を対象児童や教育機関へ配布しました。
時期	令和6年度版ワークブック配布 令和6年7月
対象	県内の小学校に通う5年生及び6年生の児童



(3) 情報発信

① みえ森林教育事例集の発行

学校等において、森林教育の導入や取組の参考となるよう、県内で実施された森林教育活動の取組をとりまとめた事例集を作成し、県内小中学校や関係教育機関へ配布します。また、その内容を県ホームページで公開します。(準備中)

② 県ホームページ

県ホームページにより各種講座やイベントの開催趣旨を伝えるとともに、みえ森と緑の県民税を活用して取組が行われていることを発信します。



県ホームページにおける
「第10回みえの森フォトコンテスト入賞作品展」の案内

③ SNS

Facebook を活用して各種講座やイベント開催の案内をすると同時に、各取組にみえ森と緑の県民税が活用されていることを伝えます。



県 Facebook における「第 11 回みえの森フォトコンテスト」の案内

④ 講座・イベント会場

会場にみえ森と緑の県民税ののぼりを設置するとともに、参加者に「みえ森と緑の県民税」のリーフレットやチラシを配布したほか、会場エントランスにおいてパネル展示をします。

また、みえ森林教育アドバイザー派遣を行った施設利用者へもチラシを配布し、災害に強い森林づくりのため県民全体で森林を支える社会づくりの大切さを伝えます。



「こども森の写真教室」における県民税のぼり旗の設置状況

⑤ーイ みえ森づくりサポートセンター運営事業

担当課：林業研究所 普及・森林教育課

基本方針：② 県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分：③ 森を育む人づくり

1. 事業の目的

森林教育や森づくり活動に携わる人材の育成を図るとともに、これらの活動に地域や学校等で取り組みやすい体制を整えることで、「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進します。

2. 令和6年度事業の概要

学校や地域で実施される森林教育や森づくり活動にかかる相談窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を運営し、森林教育や森づくり活動に対する、広域的・総合的なサポートします。

【具体的な取組】

(1) 森林教育への理解を深める講座の開催

- ① みえ森林教育講座：県民向け講座
- ② 森のせんせい養成講座：指導者向け講座
- ③ 学校教職員森林環境教育研修：教員向け講座

(2) 森林教育指導者の育成

- ① 森のせんせい登録及び活動支援、② 森の学校、③ 物品の貸出

(3) 学校等における森林教育活動の支援

- ① 森林教育出前授業、② 森林教育活動のコーディネート
- ③ 木材に親しむ場づくり

(4) 森づくり活動の支援

- ① 森づくり活動のコーディネート、② 森づくり活動支援講座、
- ③ 森づくり活動団体の登録及び活動支援

(5) 森林教育・森づくりに関する情報提供

- ① 森林づくりニュースの発行、② ホームページやSNSを活動した情報発信

（１）森林教育への理解を深める講座の開催

森林・林業に関心のある県民や森林教育指導者をめざす方、学校教育関係者を対象とした研修を実施しています。

① みえ森林教育講座

森林や木、木材に親しみ、森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられた持続可能な社会づくりや、森林に関わる活動を志すための、県民向け講座を５回開催することを計画しており、これまでに３回開催しました。

講座テーマ	開催日	開催場所	募集人数	受講人数
持続可能な森林資源の利活用	７月 21 日（日）	三重県総合文化センター	30 名	17 名
森林・林業	９月 29 日（日）	吉田本家山林部の森林 ヒノキ家研修室（大紀町）	20 名	9 名
森づくり基礎	11 月 9 日（土）	林業研究所、川口演習林	20 名	11 名
木育入門	2 月 16 日（予定）	三重びよクエの森（三重県民の森）	20 名	
現場視察	（調整中）	松阪市（調整中）	15 名	

② 森のせんせい養成講座

森林教育の指導者のスキルアップ講座を４回開催することを計画しており、これまでに３回開催しました。

講座テーマ	開催日	開催場所	募集人数	受講人数
NEAL リーダー編	11 月 23～24 日 12 月 21～22 日	松阪市森林公園 四日市市少年自然の家	15 名	7 名
LEAF ローカルインストラクター編	7 月 28、29 日	吉田本家山林部の森林 ヒノキ家研修室（大紀町）	10 名	9 名
木育インストラクター編	8 月 4 日	林業研究所	20 名	16 名
自然保育編	3 月 1 日（予定）	社会福祉法人ひよこ会こっこ保育園 他	10 名	

③ 学校教職員森林環境教育研修

学校での森林教育の取組促進を図るため、県教育委員会事務局との共催により学校教職員を対象とした研修（１回）を実施しました。

講座テーマ	開催日	開催場所	参加人数
私たちの暮らしと森林の役割	7月26日	三重大学教育学部	17名



屋内での講義の様子



屋外での森林教育の展開の実習の様子

（２）森林教育指導者の育成

① 森のせんせい登録及び活動支援

県民やさまざまな主体の参画による森林教育を進め、森林教育の場や機会を拡大することを目的に、森林や自然環境に関する学習の指導者を「森のせんせい」として登録するとともに、その活動状況を調査し、その結果を踏まえた講座の企画や情報の提供などによる、活動支援をしています。

② 森の学校

これから森林教育指導者として活躍する意欲のある森のせんせいが、森林教育を実践し、経験を積む場として、森林や木について楽しく学べることをテーマに、森林散策や木工体験等を行う「森の学校」を20回実施することとしており、これまでに19回実施しました。

③ 物品の貸出

地域における森林教育活動を支援することを目的に森のせんせい、森づくり活動団体、市町及び県を対象に、森林教育活動や森づくり活動に必要な物品などを貸し出しています。

(3) 学校等における森林教育活動の支援

① 森林教育出前授業(11回)

市町、学校、保育所等における森林教育を支援するため、学校等からの要望に応じ、指導者の紹介やプログラム提案等を行い、出前授業を11回実施することとしており、これまでに10回実施しました。

市町	開催場所	開催日	内容
桑名市	星見ヶ丘学童 保育所 太陽の子	8月1日(木)	・森のおはなし(森林のはたらきやわたしたちとの暮らし) ・丸太切り体験・コースター作り
津市	栗真小学校・ 一身田中学校 国児分校	8月19日(月)	・森のおはなし(樹木の特性と生活とのつながり) ・敷地内の木でスプーンづくり
松阪市	大河内小学校	9月10日(火)	・実験(森の土の保水力・浄化力) ・ワークショップ (周囲を流れる川と山の関係)
明和町	上御糸小学校	9月20日(金)	・実験(森の土の保水力・浄化力) ・ワークショップ(保水力・浄化力のある土をつくるための森づくり)
伊勢市	修道小学校	11月8日(金)	・丸太切り体験、木のマグネットづくり ・森のおはなし(私たちの暮らしを支える森と森を守る仕事)
伊勢市	小俣小学校	12月11日(水)	・森のおはなし(林業や森林のはたらき) ・チェーンソーによる丸太切りの見学 ・箸作り体験
大紀町	大紀小学校	7月5日(金)	・森のおはなし(地域の林業活動) ・丸太切り体験、コースター作り
鳥羽市	加茂小学校	2月20日(木) (予定)	・森のおはなし(身近な里山の姿と森のはたらき) ・箸づくり
私立	皇學館中学校	9月12日(木)	・森のおはなし(林業と私たちの暮らしとのかかわりと、林業の抱える課題) ・足場丸太加工、丸太切り、コースター作り
伊勢市	明野小学校	11月12日(火)	・教科書に出てくる葉っぱやどんぐりを探 す体験を通して、自然の姿の違いに気づく
松阪市	宮前小学校	10月3日(木)	・実験(森の土の保水力・浄化力) ・ゲームを通して、森にはいろんな形や香 りをして葉っぱをの木があることを知る

② 森林教育活動のコーディネート

森林教育活動を希望する市町、学校、保育所等において森林教育が実施されるよう、指導者の紹介やプログラム構築等のコーディネートを行っています。

③ 木材に親しむ場づくり

県・市町などが主催するイベントを中心に、三重県産の木育用遊具等を持ち込む「ミエトイ・キャラバン」をこれまでに7回実施しました。

(4) 森づくり活動の支援

① 森づくり活動のコーディネート

市町や森づくり活動に取り組もうとする団体等に対して、安全管理の指導や指導者の紹介などのコーディネートをしています。

② 森づくり活動支援講座

地域での森づくり活動をさらに活発化させるため、安全・安心な活動に向けた森づくりに関する講習会を3回開催しました。

講座テーマ	開催日	開催場所	参加人数
安全講習（座学）	10月12日（土）	林業研究所	4名
刈払い機の実技講習	10月13日（日）	林業研究所	4名
チェーンソーの実技講習	10月13日（日）	林業研究所	5名

③ 森づくり活動団体の登録及び活動支援

県内で森づくり活動を行っている団体を「森づくり活動団体」として登録し、その活動状況を調査し、講座の企画に反映したり必要な情報を提供するなどして、活動を支援しています。

(5) 森林教育・森づくりに関する情報発信

① 森林づくりニュースの発行

県内における森林教育や森づくり活動に関する季刊誌をこれまでに3回、それぞれ2,000部発行し、市町や森林教育関係施設及び森のせんせいなどに配布するとともに、その内容をみえ森づくりサポートセンターのホームページに掲載しています。

② ホームページや SNS を活用した情報発信

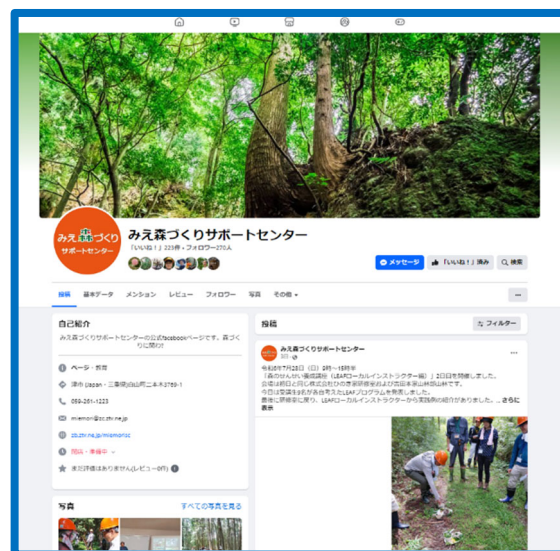
県内における森林教育や森づくり活動に関する情報や、この事業がみえ森と緑の県民税を活用して実施されていることを、みえ森づくりサポートセンターのホームページやフェイスブック、インスタグラムを活用して発信します。



みえ森づくりサポートセンターのホームページ



みえ森づくりサポートセンターの
インスタグラム



みえ森づくりサポートセンターの
フェイスブック

⑤ーウ みえ森林教育ステーション運営・整備事業

担当課：林業研究所 普及・森林教育課

基本方針：② 県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分：④ 森と人をつなぐ学びの場づくり

1 事業の目的

県民の皆さんがいつでも利用できる森林教育の活動フィールドや木製遊具などが常設された施設を整備し、森林・林業、木材利用への理解を深め、意識の醸成を図ることで、「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進します。

2 令和6年度事業の概要

三重県民の森「みえ森林教育ステーション」の適正な運営を行うとともに、定期的に森林教育にかかるイベント等を実施します。

また、森林教育ステーションの認定及び活用に向けた支援のほか、三重県林業研究所の野外フィールドを、森林教育活動フィールドとして整備します。

【具体的な取組】

(1) 三重県民の森「みえ森林教育ステーション」の運営

(2) みえ森林教育ステーションの認定と活用支援

① みえ森林教育ステーションの認定

② みえ森林教育ステーション活用に向けた支援

(3) 三重県林業研究所における「みえ森林教育ステーション」の整備

(1) 三重県民の森「みえ森林教育ステーション」の運営

目的	三重県民の森「みえ森林教育ステーション」における森林教育や施設運営、安全管理を適切に行い、利用者に安心安全で快適な環境を提供し、より多くの利用者への森林・林業、木材利用への理解を深める森林教育を推進することを目的に、三重県民の森「みえ森林教育ステーション」を運営するとともに、森林教育に関するイベントを開催しています。
期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
場所	三重びよクエの森（三重県民の森）みえ森林教育ステーション
対象	未就学児とその保護者 利用者数：8,823名
内容	森林教育に関するイベントの開催 4月12日(金)春さんぽ：参加人数14名 4月28日(土)芝生広場で絵本ライブ！：参加人数129名 5月18日(土)森の素材でデッサンに挑戦：参加人数16名 6月14日(金)押し花でオリジナル小物作り：参加人数23名 6月15日(土)押し花でオリジナル小物作り：参加人数21名 7月6日(土)おもちゃ広場：参加人数41名 8月24日(土)親子でリトミック：参加人数34名 9月13日(金)～25日(水) 木のボールプールで遊ぼう！：参加人数436人 10月20日(日)イモムシの絵本「へんしん」読み聞かせ会 ：参加人数28名 11月24日(日)みんなでつくろうクリスマスツリー ：参加人数56名 12月7日(土)おもちゃ広場：参加人数40名



「森の素材でデッサンに挑戦」開催状況



「押し花でオリジナル小物づくり」開催状況

(2) みえ森林教育ステーションの認定と活用支援

① みえ森林教育ステーションの認定

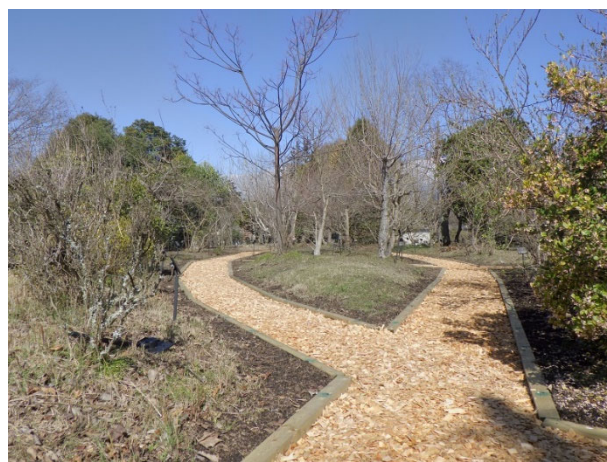
目的	県民の皆さんに森づくりの大切さや木材利用の意義を広く普及することを目的に、木製玩具や絵本などを通じて、親子で森林や木、木材の魅力に触れていただける常設型の森林教育施設をみえ森林教育ステーションに認定しています。
期間	令和6年4月～令和7年3月
対象施設	みえ森林教育ステーション認定要領第2条より (1) 県産材を使った遊具又は玩具を常設していること。 (2) 森林や木材に関する書籍や絵本について、未就学児から小学生までを対象に各年代に対応した書籍を10冊以上常設していること。 (3) 主に未就学児や児童、保護者等の複数名が日常的に利用できる空間（以下「森林教育空間」）が確保されていること。 (4) 森林教育空間の広さは、おおむね4㎡以上あり、木製の床であること。 (5) 常設の職員を配置し、森林教育活動を積極的に展開する意欲があること。 (6) 第5条の認定施設の管理者の責務の遂行が見込まれること。
認定状況	【令和6年度認定施設 3件（令和6年12月末現在）】 認定 No. 030 FUJIHUB（いなべ市） 認定 No. 031 宇賀溪観光案内所 竜のコバ（いなべ市） 認定 No. 032 子育て応援広場はぐはぐ（津市） （認定手続き中）津市たるみ子育て交流館 （認定手続き中）北勢子育て支援センター すこやかランド（いなべ市） （認定手続き中）大紀町地域子育て支援センター きらり （認定手続き中）大紀町地域子育て支援センター すくすく （認定手続き中）笠間子育て支援センター 遊・友・YOU・チャイルド（いなべ市） （認定手続き中）藤原子育て支援センター つくしんぼ（いなべ市） （認定手続き中）石榑子育て支援センター はっぴい・はあと（いなべ市） （認定手続き中）員弁子育て支援センター なかよしひろば（いなべ市）

② みえ森林教育ステーションの活用支援

目的	みえ森林教育ステーションの認定を受けようとする施設の整備に必要な物品の一部を支援しています。
期間	令和6年4月～令和7年3月
対象 資材	みえ森林教育ステーション整備支援事業実施要領第4条より (1) 県産材の積み木（※可能な限り地域産材とする。） 1セット (2) 木製タイル 5㎡程度 (3) 木製玩具（※5点までとする。） (4) 森や木に関する書籍や絵本 10冊程度

（3）三重県林業研究所における「みえ森林教育ステーション」の整備

目的	みえ森林教育ビジョンに基づき、子どもから大人まで誰もが森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人に育つことを促す森林教育活動を展開するため、三重県林業研究所の樹木図鑑園をみえ森林教育ステーションとして整備しています。
時期	令和7年3月
場所	三重県林業研究所 樹木図鑑園
内容	・令和5年度に散策路の整備をした樹木図鑑園に、樹木の説明や私たちの生活と樹木との関わりについて解説した標識を設置し、木とふれあい、樹木について学ぶ森林教育を推進するフィールドとして整備しています。



令和5年度に整備した樹木図鑑園の散策路の様子

（4）情報発信

① 県ホームページによる情報発信

みえ森林教育ステーション認定の意義や、認定した施設を県ホームページで紹介するとともに、みえ森と緑の県民税を活用した取組であることを伝えました。

② Facebook による情報発信

林業研究所において「みえ森林教育ステーション」として整備した樹木図鑑園の様子を Facebook で情報発信します。

⑥ みんなで取り組む三重の森づくり推進事業

担当課：みどり共生推進課

基本方針：② 県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分：③ 森を育む人づくり

1 事業の目的

児童・生徒を対象とした「みえの森づくりポスターコンクール」のほか、県民が森林を身近なものとして感じ、学べる場として「森林フェスタ」を開催するなど、県民が森を育む意識の醸成を図ります。

また、県民、企業による森づくり活動の機会や場の提供を通じて、県民による森づくり活動の促進を図ります。あわせて、企業・NPO・教育機関・行政などで構成する「三重の森づくりネットワーク」を新たに構築し、各主体の交流を通じて「三重の森づくり運動」を展開し、全国植樹祭の令和13年度招致に向けた気運を醸成します。

2 事業の必要性

県が実施した「令和4年度三重の森林づくりに関する県民意識調査」の結果では、「森林に積極的に関わっていききたい」と回答した方が5.1%と低い結果となりました。一方で、幼少期に森林にふれていた人ほど、森林に関わっていききたいと考える傾向のあることが判明しています。

このことから、ポスターコンクールや森林フェスタを通じて、県民が森を育む意識の醸成を図るほか、県民、企業による森づくり活動の機会や場の提供を通じて、県民による森づくり活動の促進を図ります。

3 事業の概要

(1) 「森林フェスタ」の開催

イベント名：みえ森林フェスタ2024志摩
日時：令和6年10月5日(土)10:00～16:00
場所：志摩市阿児アリーナ
主催：三重県
後援：志摩市
来場者数：約1,600名



森林フェスタ会場の様子



森林フェスタチラシ

「森林フェスタ」は、県民の皆さんが森林や木に親しみ、森林への理解と関心を深めていただくことを目的に開催するもので、平成27年に鈴鹿市で開催して以来9年ぶりの開催となりました。来場者の皆さまには、さまざまなステージイベントやミエトイキャラバンなどの各種ブース、屋外では、森の遊園地やキッチンカーなどのコンテンツを楽しんでいただきました。



メイン会場の様子



親子でマガジンラック製作



ミエトイキャラバン・キッズスペース



ヒノキの車試乗体験



木のボールプール体験



丸太切り体験

(2) 「みえの森づくりポスターコンクール」の開催

「みえの森づくりポスターコンクール」は、森林や樹木の大切さや、森や自然を守り育てる思いなどを表現するポスター原画の作製を通じて、次代を担う子どもたちの森林づくりや緑化に対する意識を醸成することを目的として、三重県と(公社)三重県緑化推進協会が共同で開催しています。本年度は、県内小中学校43校から計317点の応募があり、「森林フェスタ」のオープニングセレモニーにおいて表彰式を開催し、特選・準特選・入選者に賞状と副賞を授与しました。

応募者数（令和6年度）

	小学校	中学校	高等学校	合計
参加校数（校）	23	20	0	43
応募人数（人）	68	249	0	317



受賞者による記念撮影



中学校の部：特選



小学校の部：特選

(3) 「三重の森づくりネットワーク」の構築

令和6年10月、(公社)三重県緑化推進協会の協力のもと、企業、NPO、教育機関、行政などが一丸となって、森づくりや森林教育の課題解決及び活動促進を目的に、「三重の森づくりネットワーク」を立ち上げました。

「森林フェスタ」のオープニングセレモニーでは、「三重の森づくりネットワーク立ち上げ式」を開催し、会員である「いせしま森林組合」、「もくいち・マルゴ株式会社」から、それぞれの森づくりの活動内容についてご紹介いただきました。

現在、ネットワーク会員数は65団体となっております、引き続き新規会員の募集を進めていきます。



三重の森づくりネットワークチラシ

現在のネットワーク会員（65団体）

企業	5（三重トヨペット(株)、住友理工(株)、もくいち・マルゴ(株) など）
NPO	14（認定NPO法人森林の風、NPO法人大杉谷自然学校 など）
その他団体	18（県内森林組合、みどりの少年隊 など）
行政	28（県内市町、三重森林管理署、伊勢志摩国立公園事務所 など）



森づくりの活動内容を紹介



ネットワーク会員による記念撮影

⑦ 生物多様性推進事業

担当課：みどり共生推進課

基本方針：② 県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分：⑤ 地域の身近な水や緑の環境づくり

1 事業の目的

森林の多面的機能の一つである生物多様性の保全に向けて、野生生物の生息状況調査やデータベースの整備、普及啓発などに取り組むとともに、活動団体等が実施する自然環境保全活動を支援します。

2 事業の必要性

県では、これまで、生物多様性の保全を進めるための地域戦略である「みえ生物多様性推進プラン」の取組方針に沿って、県民への生物多様性に関する理解促進を図るとともに、県民による地域の自然を守る保全活動への支援など、地域と連携した取組を進めてきました。

その結果、自然環境の保全に取り組む活動団体数や、希少種等の保全活動実施数が増加するなど、一定の成果が得られました。

一方で、近年、大規模な自然地の開発が増加しているほか、管理不足の里山や外来生物の増加など、森林生態系をはじめとする生物多様性の置かれている現況は依然として厳しい状況にあります。

このことから、これまでの取組をさらに進めるとともに、今後は、さまざまな主体と協力しながら、生物多様性の保全に取り組んでいく必要があります。

3 事業の内容

自然環境に関する保全活動や開発事業に対する環境配慮の促進のためには、県民の生物多様性についての正しい理解が不可欠です。そのためには、自然環境や野生動植物に関する情報やデータベースが必要であり、希少動植物の情報などを取りまとめた「三重県レッドデータブック 2015」が、その基礎資料として広く活用されています。

この「三重県レッドデータブック 2015」は、発行から8年が経過しており、野生動植物の生息状況の変化等をふまえた見直しが必要となっています。

そこで、県内の生物相や各種の生態等に関する執筆を行い、改訂版レッドデータブックを発刊するとともに、県民への生物多様性やレッドデータブックについての普及啓発のため、自然観察会や講話等を実施します。

また、自然環境保全活動の支援として、引き続き、自然環境保全団体への専門家派遣や合同での調査・保全活動を実施します。

4 事業の進捗状況

(1) 野生生物の生息状況調査

生物多様性推進施策に必要な野生動植物種の基礎情報を把握するため、野生鳥類（ガン類、カモ類、ハクチョウ類、カワウ）の生息状況調査を実施します。

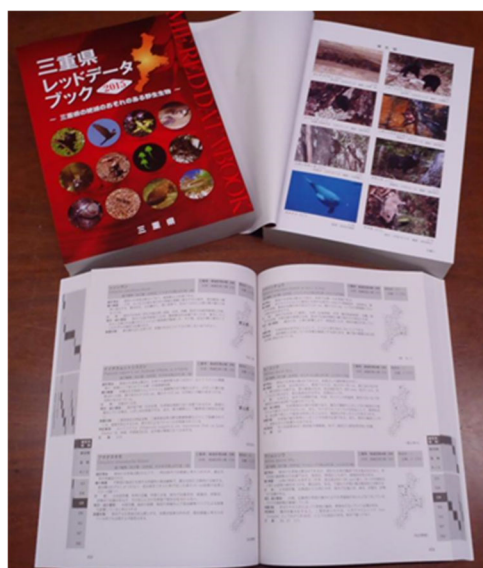
(令和7年1月以降実施予定)

(2) 絶滅のおそれを評価すべき野生生物リスト内の種の調査／レッドデータブックの発刊

「改訂版レッドデータブック」の発刊に向けて、改訂版レッドリストを作成するとともに、執筆・編集作業を進めています。

三重県レッドリスト改訂案（魚類）								
	目名	科名	和名	備考	学名	新カテゴリー	旧カテゴリー	環境省
1	トゲウオ目	トゲウオ科	ハリヨ		<i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp. 2	EX	EX	CR
2	サケ目	サケ科	イワメ		<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	CR	CR	NT (アマゴ)
3	コイ目	コイ科	イチモンジタナゴ		<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	CR	CR	CR
4	コイ目	コイ科	シロヒレタビラ		<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	CR	CR	EN
5	コイ目	コイ科	カワバタモロコ		<i>Hemigrammocypripis neglectus</i>	CR	CR	EN
6	コイ目	コイ科	ウシモツゴ		<i>Pseudorasbora pugnax</i>	CR	CR	CR
7	○コイ目	コイ科	ぜぜら		<i>Bivia zezera</i>	CR	—	—
8	ナマズ目	ギギ科	ネコギギ		<i>Tachysurus ichikawai</i>	CR	CR	EN
9	スズキ目	ハゼ科	キセルハゼ		<i>Gymnogobius cylindricus</i>	CR	CR	EN
10	スズキ目	ハゼ科	トビハゼ		<i>Periophthalmus modestus</i>	CR	CR	NT
11	スズキ目	ハゼ科	トウカイヨシノボリ		<i>Rhinogobius telma</i>	CR	CR	NT
12	スズキ目	ハゼ科	チワラスボ		<i>Taenioides snyderi</i>	CR	CR	EN
13	スズキ目	ハゼ科	ショウキハゼ		<i>Tridentiger barbatus</i>	CR	CR	NT
14	◇スズキ目	ハゼ科	タビラクチ		<i>Apocryptodon punctatus</i>	CR	DD	VU
15	○スズキ目	ハゼ科	ユウスイミミズハゼ		<i>Luciogobius fonticola</i>	CR	—	NT
16	○スズキ目	ハゼ科	コガネチワラスボ		<i>Taenioides gracilis</i>	CR	—	—
17	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ		<i>Anguilla japonica</i>	EN	EN	EN
18	サケ目	シラウオ科	シラウオ		<i>Salangichthys microdon</i>	EN	EN	—
19	コイ目	コイ科	ズナガニゴイ		<i>Hemibarbus longirostris</i>	EN	EN	—
20	コイ目	コイ科	アブラボテ		<i>Tanakia limbata</i>	EN	EN	NT
21	↑コイ目	コイ科	カワヒガイ		<i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i>	EN	VU	NT
22	コイ目	ドジョウ科	トウカイコガタスジマドジョウ		<i>Cobitis minamori tokaensis</i>	EN	EN	EN
23	コイ目	ドジョウ科	アジメドジョウ		<i>Cobitis delicata</i>	EN	EN	VU
24	↑スズキ目	カジカ科	カジカ	(カジカ大卵型；河川陸封型)	<i>Cottus pollux</i>	EN	VU	NT
25	スズキ目	ハゼ科	イドミミズハゼ		<i>Luciogobius pallidus</i>	EN	EN	NT

改訂版レッドリスト（抜粋）



三重県レッドデータブック2015



執筆・編集レイアウトイメージ

（３）自然環境保全活動の支援

生物多様性保全活動について、専門家の派遣を行うなどにより支援を行いました。

自然環境保全活動の実施状況

対象種	活動時期	実 施 内 容
マメナシ	令和6年4月、9月、 12月	保全活動団体、専門家と調査・保全活動を行った。
ギフチョウ	令和6年4月	保全活動団体と調査を行った。
ウシモツゴ	令和6年5月、6月、 7月、10月、11月	保全活動団体、専門家と調査・保全活動を行った。
アゼオトギリ	令和6年6月	保全活動団体、専門家と保全活動を行った。
河川での自然観察会	令和6年7月	保全活動団体と水生生物の観察会を開催するとともに調査を行った。
ため池の外来種	令和6年9月	保全活動団体と駆除活動を行った。



保全活動の実施状況（マメナシ）



保全活動の実施状況（ギフチョウ）



保全活動の実施状況（ウシモツゴ）



保全活動の実施状況（ため池の外来種）

(4) 生物多様性に関する観察会や講話等

生物多様性に関する啓発を行うため、自然観察会や講話等を行いました。

自然観察会や講話等の実施状況

講義・イベント名	実施日	実施内容
環境学習情報センター 「環境基礎講座 2024」	令和6年7月13日	生物多様性及びみえ生物多様性推進プラン(第4期)について説明
大和ハウス観察会	令和6年7月27日	外来種について説明
三重動物学会総会	令和6年9月28日	生物多様性推進プラン(第4期)及びツキノワグマについて説明
みえ生物多様性推進プラン(第4期)説明会	令和6年11月25日、 27日、28日	生物多様性及びみえ生物多様性推進プラン(第4期)について説明



環境基礎講座 2024



大和ハウス観察会



三重動物学会総会



みえ生物多様性推進プラン(第4期)説明会

⑧ 森林とふれあう自然公園環境整備事業

担当課：みどり共生推進課

基本方針：② 県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分：⑤ 地域の身近な水や緑の環境づくり

1 事業の目的

県民が森林や緑と親しむ機会を創出し、身近な緑や水辺の環境と県民との関係を深めるため、地域のNPOや団体、市町等と連携し県内の自然公園や東海・近畿自然歩道、大杉谷登山歩道等を活用し、森林教育のイベントやガイドツアー等の取組を推進します。

イベント等の企画運営や、自然公園の保全、適切な利用の啓発等を実施するとともに、活動のフィールドとなる自然公園の園地や東海・近畿自然歩道、大杉谷登山歩道等における施設の安全確認や改修などを行い、県民全体で森林を支える社会づくりを推進します。

2 事業の必要性

近年、自然体験に対するニーズが高まっており、県民が地域の自然とふれあいながら知識や理解を深めることのできる森林教育の場を構築する必要があります。

また、森林教育のイベントやガイドツアーで活用する自然公園の園地や東海・近畿自然歩道、大杉谷登山歩道等は、転落防止柵や歩道等の施設が設置から30年以上経過しているものもあり、利用者が安全・安心に利用するためには、施設の再整備を進める必要があります。

3 事業の内容

多くの県民が森林や緑と親しめるよう、地域のNPOや団体、市町等と連携し自然公園の園地や東海・近畿自然歩道、大杉谷登山歩道等を活用して実施する森林教育のイベントやガイドツアー等を行います。

また、そのフィールドとなる自然公園の園地や自然歩道等において、活用される施設の安全確認や点検を行い、安全・安心に利用できるように歩道の整備や転落防止柵等の改修などを行います。

森林教育イベント・自然観察ツアーの開催実績・予定

令和6年12月末日現在

自然公園名	自然公園施設名称等	実施場所	実施日	参加人数	内容
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	伊勢市	5月11日	9	自然観察ツアー（二見ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市	6月8日	9	自然観察ツアー（菅島ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	志摩市	7月6日	9	自然観察ツアー（磯部ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	鵜倉園地	南伊勢町	7月27日	18	自然観察ツアー（鵜倉半島星空観察会）
伊勢志摩国立公園	横山園地	志摩市	9月8日	19	自然観察ツアー（横山キノコ観察会）
伊勢志摩国立公園	横山園地	志摩市	9月21日	5	自然観察ツアー（横山ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市	10月12日	13	自然観察ツアー（神島ウォーキングと海女さんふれあい体験）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市	10月20日	13	自然観察ツアー（神島ウォーキングとアサギマダラ観察）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市	11月16日	5	自然観察ツアー（加茂ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	志摩市	11月17日	7	自然観察ツアー（伊勢志摩の地層の成り立ちを探る）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市	11月23日	9	フォトフレーム作り
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市	11月24日	8	フォトフレーム作り
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	南伊勢町	12月7日	16	自然観察ツアー（五ヶ所ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	伊勢市	12月15日	6	自然観察ツアー（宇治岳道ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	志摩市	12月22日	12	自然観察ツアー（京路山を登ろう）
吉野熊野国立公園	大杉谷登山歩道	大台町	9月28日～29日	5	自然観察ツアーとボランティア整備（歩道整備とごみ拾い）
吉野熊野国立公園	大杉谷登山歩道	大台町	11月12日～13日	2	自然観察ツアーとボランティア整備（歩道整備とごみ拾い）
鈴鹿国定公園	御在所岳園地	菰野町	9月8日	47	森林教育イベント（植樹体験）
室生赤目青山国定公園	東海自然歩道	伊賀市	11月8日	7	森林教育イベント（歩道作設体験・自然観察）
奥伊勢宮川峡県立自然公園	奥伊勢フォレストピア （林間広場、遊歩道）	大台町	12月1日	15	森林教育イベント（自然体感型ウォークラリー）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	志摩市	1月11日予定	－	自然観察ツアー（御座ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	南伊勢町	1月19日予定	－	自然観察ツアー（棚橋ウォーキングと塩作り）
伊勢志摩国立公園	横山園地	志摩市	2月2日予定	－	森林教育イベント（草木染教室）
公園区域外	近畿自然歩道	伊勢市	2月8日予定	－	自然観察ツアー（倉田山ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	伊勢市	3月8日予定	－	自然観察ツアー（朝熊岳道ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	鵜倉園地	南伊勢町	日程調整中	－	自然観察ツアー（鵜倉園地で冬の星空観察会）

※参加人数は速報値を含みます。

◆ イベント・ツアーの開催状況



自然観察ツアー(R6.12.7)

【伊勢志摩国立公園】

ウォーキングツアーの状況



自然観察ツアー(R6.7.6)

【伊勢志摩国立公園】

ガイドからの説明状況



森林教育イベント(R6.12.1)

【奥伊勢宮川峡県立自然公園】

自然体感型ウォークラリー



森林教育イベント(R6.12.1)

【奥伊勢宮川峡県立自然公園】

自然体感型ウォークラリー



森林教育イベント(R6.9.8)

【鈴鹿国定公園】

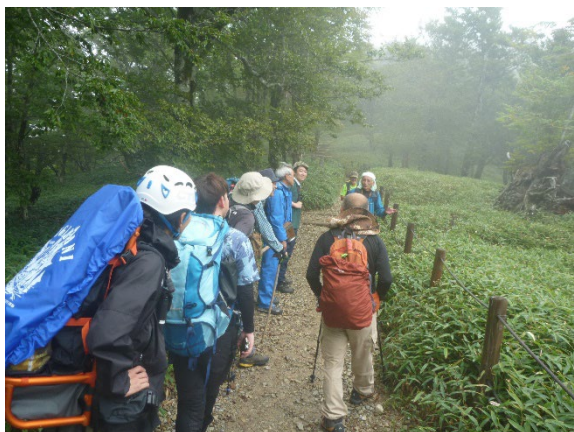
参加者による植樹



森林教育イベント(R6.9.8)

【鈴鹿国定公園】

参加者による植樹



自然観察ツアー&ボランティア整備

(R6. 9. 28～29) 【大杉谷登山歩道】

ガイドからの説明状況



自然観察ツアー&ボランティア整備

(R6. 9. 28～29) 【大杉谷登山歩道】

ガイドからの説明状況



自然観察ツアー&ボランティア整備

(R6. 11. 12～13) 【大杉谷登山歩道】

参加者による歩道整備



自然観察ツアー&ボランティア整備

(R6. 9. 28～29) 【大杉谷登山歩道】

参加者による環境保全活動

◆生活環境保全林での取組状況

- ・木製施設の腐朽が進むなど、安全な利用が困難になるおそれがある横山生活環境保全林(志摩市)について、森林教育のフィールドとして活用するため、歩道や手すりの補修等を行っています。

※整備内容：階段補修、手すり設置、案内板設置

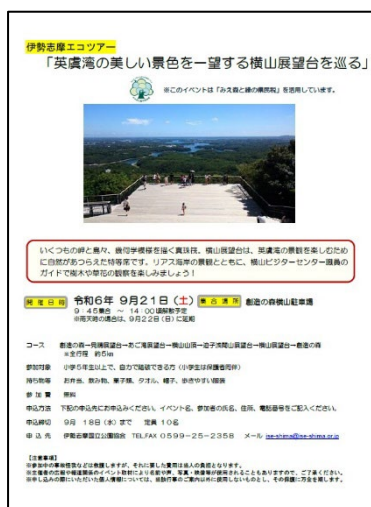
- ・整備後、みえ森づくりサポートセンターによる森林教育活動（森の学校）を実施する予定です。（令和7年3月8日予定）

4. 「みえ森と緑の県民税」の周知

- ・イベントやツアーの開催募集チラシにおいて、「みえ森と緑の県民税」を活用していることが分かるよう周知を行っています。
- ・イベントやツアーの参加者に「みえ森と緑の県民税」のパンフレットなどを配布して周知を図っています。

- ・イベントやツアー開催中は、「みえ森と緑の県民税」を活用した取組であることが分かるよう、のぼり旗を設置し、参加者以外の方々にもPRを行っています。
- ・整備などが行われた箇所には、「みえ森と緑の県民税」を活用して行われたことが分かるよう、看板などを設置しています。
- ・県ホームページのみならず、情報発信力のあるNPO等のホームページなどにおいて「みえ森と緑の県民税」を活用したイベントの活動報告を掲載しています。

◆開催募集チラシでの周知



チラシでの周知状況

活動目的やロゴマークなどを記載

※植樹体験については、荒天で一度延期しているため実施日と異なります。

◆イベントやツアー開催中での周知



イベントやツアー開催中の周知状況

「みえ森と緑の県民税」のぼり旗、ロゴマーク使用ポスターの設置

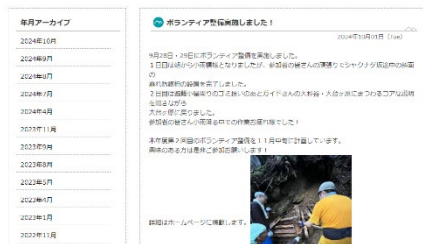
◆施設整備を行った箇所の周知



施設整備を行った箇所の周知状況

「みえ森と緑の県民税」ロゴマークを設置
【大杉谷登山歩道】

◆ホームページ、SNS による周知



<https://oosagiyama.jp/活動紹介/12月1日（日）「山の謎解きウォークラリー-納奥伊勢」>

12月1日（日）「山の謎解きウォークラリー-納奥伊勢」を開催いたしました🍁🍁

2024.12.10

三重県森林とふれあう自然公園管理組合主催として、12月1日（日）に伊勢勢フォレストピア敷地内で『山の謎解きウォークラリー-納奥伊勢』を開催しました🍁紅葉ももうじき見頃になったので、秋の自然を満喫しながら皆さんと一緒に謎解きをしました🍁こちらのイベントは「みえ森と緑の県民税」を活用して実施しました。皆さんは「みえ森と緑の県民税」を聞いたことありますか？「みえ森と緑の県民税」とは、「災害に強い森林づくり」のほかに、森林環境教育のような「森林を伝える活動づくり」に取り組み、三重県の森林づくりに役立てる税金です。今回イベントを通して、皆さんに森林について学び、ふれあう場を提供できたと思います🍁

イベント当日の様子も紹介させていただきます。三重県の謎解きウォークラリーは自然豊かな伊勢勢の中で自然を満喫するとともに、国富川村に伝わる「年忌追分」にまつわる謎を解く謎解きウォークラリーです。サリエンテーションでは「年忌」の活動も実際に再現しました。謎解きウォークラリーの参加者は終盤半段に集まる集まる木こりを助けるために、半段が隠れる隠れのあるノコギリを貸さないといけません。そのために、参加者の皆さんが協力して謎を解いてノコギリの場所のヒントを貰えます🍁



ウォークラリーでは謎解きの他に、ノコギリで丸太を切ったり、木の匂いを当てたりするなど楽しみました自然体験もあります。



ホームページによる周知状況

大杉谷登山センター、大杉谷自然学校 HP 及び県 HP

※その他、NPO 等の SNS でも周知しています。

みえ森と緑の県民税市町交付金事業の概要

みえ森と緑の県民税の趣旨に沿って、市町が地域の実情に応じ創意工夫して森林づくりの施策を展開するとともに、県と市町が連携して課題解決に取り組むことができるよう、みえ森と緑の県民税市町交付金（以下「市町交付金」という。）を交付するものです。

1. 県と市町との役割分担

県	基本方針1のうち、対策1を継続して重点的に取り組むこととし、事業の実施による効果が広範囲にもたらされる対策や、県が実施することで効率化が図られる対策を担う。また、市町における事業構築に対する支援を行う。
市町	地域の実情に応じたきめ細かな対策や、住民との直接的な関係が見込まれる身近な対策を担う。

2. 市町交付金の配分

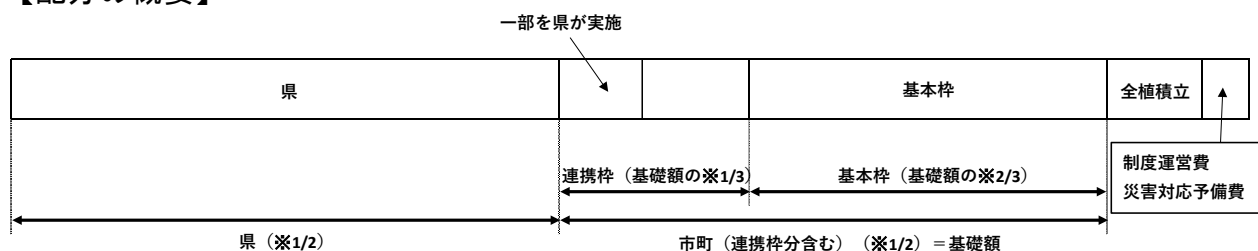
県民税基金の取崩可能額のうち、制度運営費、災害対応予備費、全国植樹祭に向けた基金積立を除いた額の概ね2分の1（※）に相当する額を市町交付金の総額とします。

※5年間の総額で、県と市町の配分割合は、5：5を基本としつつ、市町からの要望に基づいた柔軟な配分を行う。

市町毎の配分は、森林面積や人口などを算定基礎として配分の上限額を設定したうえで、市町からの要望に基づいて配分する「基本枠」と、県と市町が連携して取り組むべき課題に対し、市町からの申請に応じて配分する「連携枠」を設けます。「基本枠」の配分割合は、市町交付金総額の概ね3分の2、「連携枠（県が実施した方が効率的である事業を含む）」は、概ね3分の1とします。

基本枠	市町からの要望に基づいて、必要な規模を配分します。 ※均等配分（各市町へ均等に一定額を配分）、人口配分（市町の人口割合に応じて配分）、森林面積配分（市町の森林面積割合に応じて配分）の3つの配分方法を組み合わせて配分の上限額を設定します。
連携枠	面的な森林整備や獣害対策、ライフライン周辺の危険木の事前伐採など、県と市町が連携して取り組むべき課題に対し、市町からの申請に応じて配分します。

【配分の概要】



※配分割合は、表示の割合を基本としつつも、市町からの要望や事業実施状況によって変動

3. 市町交付金の使途

1) みえ森と緑の県民税を活用した事業を行ううえでの3原則

事業の実施にあたっては、次の3つの原則全てを満たさなければなりません。

- 【原則1】 「2つの基本方針と5つの対策(※)」に沿った内容であること。
- 【原則2】 新たな森林対策として実施する新規又はこれに準ずる内容であること。なお、税導入以前から取り組まれている事業の場合は、新たな視点を取り入れた内容とすること。
- 【原則3】 直接的な財産形成を目的とする内容でないこと。

2) 森林環境譲与税との関係

県では、平成31年2月13日付けで、「三重県における森林環境譲与税についての基本的な考え方」を定めて市町と共有し、みえ森と緑の県民税と森林環境譲与税の使途を棲み分けて、双方を有効に活用しています。今後も、両税に使途を棲み分け有効活用しながら、森林・林業施策を進めます。

3) 市町における基金設置について

市町は、交付金事業の財源に充てるための基金を設置し、交付金を計画的に基金に積み立てたうえで次年度以降の交付金事業に充てることができます。なお、積み立てた基金は、原則として第3期内に活用する必要があります。

※2つの基本方針と5つの対策

- 基本方針1 災害に強い森林づくり
 - 対策1 土砂や流木による被害を出さない森林づくり
 - 対策2 暮らしに身近な森林づくり

- 基本方針2 県民全体で森林を支える社会づくり
 - 対策3 森を育む人づくり
 - 対策4 森と人をつなぐ学びの場づくり
 - 対策5 地域の身近な水や緑の環境づくり

⑨ーアーa 流域防災機能強化対策事業

担当課：みどり共生推進課

基本方針：① 災害に強い森林づくり

対策区分：① 土砂や流木による被害を出さない森林づくり

1 事業の目的

山腹崩壊の発生源となる斜面上部の凹地形周辺や、土壌浸食のおそれがある溪流沿いの森林において、根系や下層植生の発達を促す森林整備を実施し、流域の防災機能の強化を図ります。

2 事業の必要性

県では、「みえ森と緑の県民税」を活用し、流木や土砂流出の発生の恐れのある崩壊土砂流出危険地区（以下「危険地」という。）において、溪流内の危険木の除去のほか、溪流沿いの一定幅の立木を伐採・搬出し、流木や土砂の流出を抑制するための森林整備（災害緩衝林整備事業）等に取り組んできました。

こうした中、災害緩衝林整備事業による整備区域と隣接し、一体的に整備を行うことでより効果を発揮できる森林や、危険地以外にも対策が必要な森林が多数存在していることから、整備の対象を拡大し、土砂や流木による被害を出さない森林づくりを面的に進めていくことが必要です。

3 事業の概要

（1）間伐等（災害緩衝林一体型）

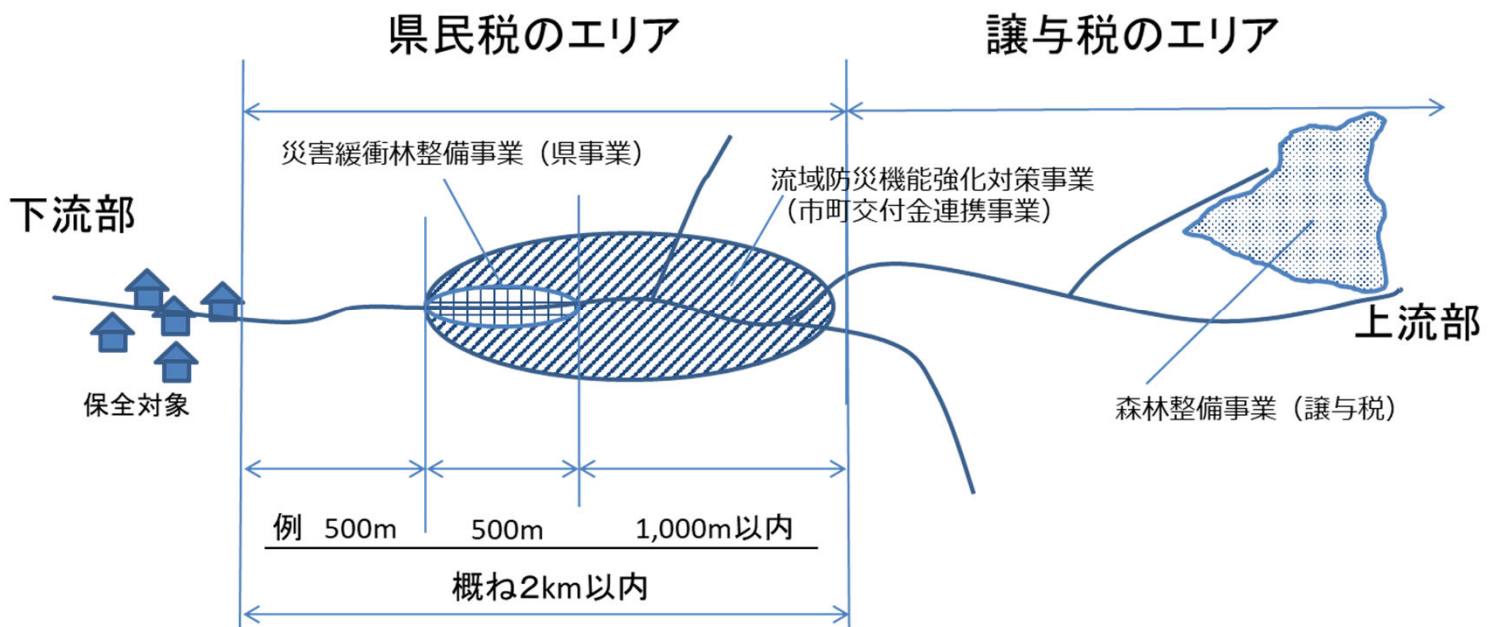
みえ森と緑の県民税を活用して県が実施する災害緩衝林整備事業の整備範囲の森林と一体的に整備します。

（2）間伐等（環境林・特定水源地域）

県ゾーニングが環境林、又は三重県水源地域の保全に関する条例に規定する特定水源地域として指定されている森林を整備します。

※本事業により森林整備を実施した箇所を含む小流域（保全対象から概ね2km以内の溪流沿いの範囲）で新たな森林整備を行う場合、森林環境譲与税は活用しないものとします。

<事業エリアイメージ>



4 令和6年度事業の取組

12市町において、348.95haの森林整備を計画しており、191.34ha(全体の54.8%)において、着手済となっています。

市町	災害緩衝林一体型		環境林・特定水源地域		計		
	事業量 (ha)	交付金 (千円)	事業量 (ha)	交付金 (千円)	事業量 (ha)	うち着手済 (ha)	交付金 (千円)
津市			80.00	38,137	80.00	64.87	38,137
松阪市	15.00	5,700			15.00	12.46	5,700
多気町	13.00	3,000			13.00	7.10	3,000
大台町	26.31	10,524	83.67	31,909	109.98	88.91	42,433
度会町			14.00	7,270	14.00	0.00	7,270
大紀町	11.00	6,200			11.00	0.00	6,200
志摩市			11.20	4,000	11.20	0.00	4,000
伊賀市			55.00	14,421	55.00	8.00	14,421
名張市			16.00	4,400	16.00	0.00	4,400
紀北町	10.00	5,000			10.00	10.00	5,000
熊野市	13.00	13,000			13.00	0.00	13,000
紀宝町	0.77	1,000			0.77	0.00	1,000
計	89.08	44,424	259.87	100,137	348.95	191.34	144,561

森林整備の実施状況（写真は令和5年度事業）



森林整備前



森林整備後

⑨ーアーb 災害からライフラインを守る事前伐採事業

担当課：みどり共生推進課

基本方針：① 災害に強い森林づくり
対策区分：② 暮らしに身近な森林づくり

1 事業の目的

台風などの倒木被害により電線等のライフラインを寸断する恐れのある危険木の事前伐採に、電力会社等のライフライン事業者と連携して取り組む市町を支援し、台風等に伴う大規模停電の未然防止などのライフラインの保全を図ります。

2 事業の必要性

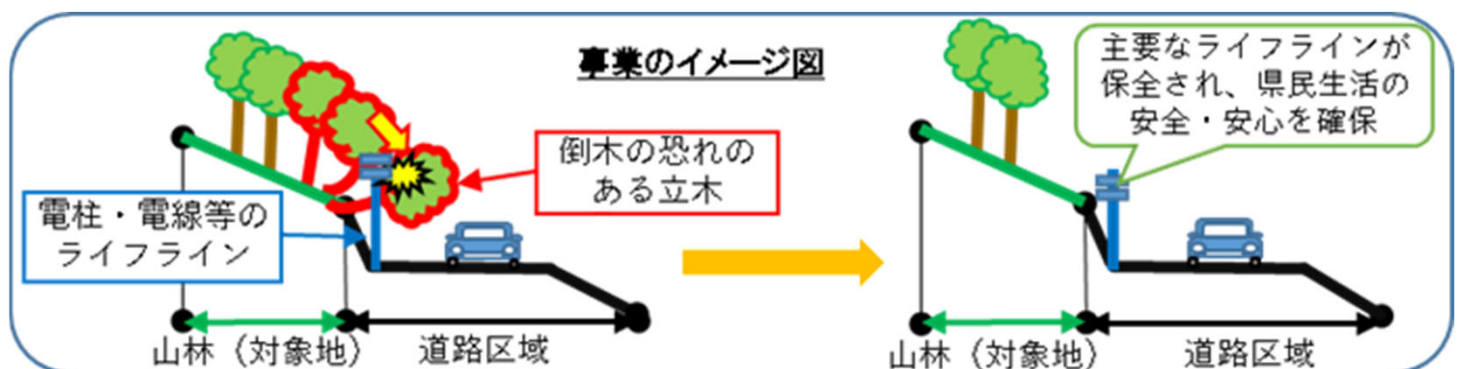
令和元年の台風15号では、千葉県を中心に大規模かつ長期的な停電が発生し、住民生活や地域の経済活動が滞ったうえ、市町の防災システムが機能しない等の甚大な被害が発生しました。また、三重県内においても、平成30年の台風21号では約28万戸で停電被害が発生し、特に山間部では、停電の原因の約80%は倒木によるものでした。

このような被害を未然に防ぎ、県民の安全・安心な暮らしを守るため、災害に強い森林づくりの一環として、市町や電気事業者等のライフライン事業者と連携して、「災害からライフラインを守る事前伐採事業」に取り組む必要があります。

3 事業の概要

停電等のライフラインへの被害を未然に防ぎ、県民の安全・安心な暮らしを守るため、ライフライン事業者と連携して、台風などの倒木によりライフラインを寸断してしまう恐れのある樹木の事前伐採に取り組む市町に対して、県が事業費の一部を負担するなどの支援を行います。

事業の実施にあたっては、市町・県・ライフライン事業者の三者で、相互の連携による事業の円滑な実施を目的とした協定を締結することとしています。また、この協定に基づき、三者が構成員となった協議会を設置し、市町が作成する事業計画についての協議や他事業との調整などを行い、事業を進めていきます。



4 令和6年度事業の取組

10市町において3,686本の事前伐採を計画しており、3,105本（全体の84.2%）が着手済となっています。

市町	災害からライフラインを守る事前伐採事業		
	事業量 (本)	うち着手済 (本)	交付金 (千円)
四日市市	280	245	6,500
鈴鹿市	27	8	2,930
東員町	調査一式	調査一式	1,000
菰野町	20	13	800
津市	133	133	5,450
松阪市	1,000	1,000	10,000
多気町	826	788	9,225
大台町	900	918	19,040
度会町	400	0	6,000
鳥羽市	100	0	1,617
計	3,686	3,105	62,562

事前伐採の実施状況（写真は令和5年度事業）



事前伐採前



事前伐採後

⑨－ア－c 県民参加の植樹祭事業

担当課：みどり共生推進課

基本方針：② 県民全体で森林を支える社会づくり
対策区分：③ 森を育む人づくり

1 事業の目的

植樹等の森づくりの機会を提供することで、県民が森林や木に親しみ、森づくり活動に関心や理解を深めてもらうことを目的とします。

2 事業の必要性

令和4年度に行った「三重の森林づくりに関する県民意識調査」では、子どもの頃に森林とふれあった機会が多いほど県民税の認知度が高い傾向にありました。

こうした中、県民が森林や木に親しみ、森づくり活動に関心や理解を深めてもらうため、県民参加の植樹祭を開催し、森林教育を推進することが必要です。

3 事業の概要

県民が植樹等の森づくり活動を体験できる「県民参加の植樹祭」を、市町が県と連携して開催します。また、必要に応じて、森林や森づくり活動への理解を深めるための行事をあわせて開催できるものとします。

4 令和6年度事業の取組

志摩市において「県民参加の植樹祭」を開催しました。参加者の皆さんには、植樹体験を通じて、森林を身近なものとして感じていただくとともに、講師(いせしま森林組合)から、森林の持つ働きや重要性を学んでいただきました。

※県主催の「森林フェスタ2024志摩」と同日に開催し、両イベントの相乗効果を図りました。

開催日程：令和6年10月5日(土) 13:00～15:00

開催場所：志摩市国府地内（エレコムフォレスト志摩）

参加人数：15名 植栽樹種：ウバメガシ、モチノキ、タブノキ



植樹祭会場



親子で植樹

⑨ みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業

担当課：みどり共生推進課

基本方針：①災害に強い森林づくり ②県民全体で森林を支える社会づくり
対策区分：5つの対策全て

1 事業の目的

森林行政の第一線にあり、森林所有者や事業者、森林づくりに取り組む団体等と主体的に接点を持ちながらパートナーシップを築き、地域の森林づくりのリード役となる市町が、地域の実情に応じて創意工夫した森林づくりの施策を展開します。

2 事業の必要性

これまでも市町においては、交付金を活用したさまざまな事業が実施されており、県民税の趣旨に沿った取組の推進に大きく貢献しています。引き続き、市町が地域の実情に応じ、創意工夫して森林づくりの施策を展開できるよう、交付金を交付する必要があります。

3 事業の概要

1市町あたり500万円の均等配分と、森林面積配分、人口配分の3つの配分方法を組み合わせた「基本枠交付金」を交付します。（森林面積が100ha未満または森林率が10%未満である市町には、要望に基づき、5年間で900万円を上限に加算することができます。）

市町は、この交付金を財源に、県民税を活用した事業を行ううえでの3原則を満たし、森林環境譲与税と使途を棲み分けたうえで、地域の実情に応じた森林づくりなどに取り組みます。また、第3期の期間に実施する事業の財源に充てるための基金積立も交付の対象とします。

令和6年度事業実施状況

対策区分	市町数	事業数	当年度交付額(円)	基金活用額(円)
1	3	3	32,698,000	0
2	21	31	120,650,000	0
3	19	32	30,944,590	0
4	17	29	80,613,010	0
5	13	18	69,819,400	0
計		113	334,725,000	0
基金積立	2	2	6,275,000	0
合計		115	341,000,000	0

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別一覧

【四日市市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	危険木等除去支援事業	1,000,000		自治会等が実施する、道路沿いの危険木の伐採等に対する支援	実施中
2	里山・竹林環境保全支援事業	3,000,000		活動団体等が実施する、里山や竹林の整備に対する支援	実施中
4	一般備品整備事業（小学校）	9,074,000		市が実施する、小学校図書室への木製備品（机、椅子）の導入	実施中
4	一般備品整備事業（中学校）	9,074,000		市が実施する、中学校図書室への木製備品（机、椅子）の導入	実施中
四日市市計		22,148,000	-		

【桑名市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
5	播磨2号緑地里山整備事業	534,000		市が実施する、里山の散策路整備等	実施中
5	竹林環境整備事業	6,655,000		活動団体が実施する、竹林の整備や竹の活用推進に対する支援	実施中
-	みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業	5,775,000	-		-
桑名市計		12,964,000	-		

【鈴鹿市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	森林・竹林環境保全促進事業	3,150,000		市が実施する、樹木をチップ化する機材の購入と貸出	実施中
2	暮らしを守る森林保全事業	2,797,000		市が実施する、海岸林や人家周辺の病虫害被害木の伐採と病虫害の防除	実施中
3	里山保全ボランティア育成事業	300,000		市が実施する、里山保全を担う人材の育成	実施中
3	森と緑の生涯学習講座	770,000		活動団体等が実施する、公民館での「森と緑の生涯学習講座」の開催への支援	実施中
3	木育・森林教育支援事業	200,000		活動団体が実施する、森林教育活動への支援	未着手
3	緑に親しむ記念樹配布事業	539,000		市が実施する、植木まつり会場での記念樹・木製プレート配布とアンケート調査	完了
4	鈴鹿市立白子中学校図書室用木製品設置及び森林教育推進事業	5,245,000		市が実施する、中学校図書室への木製備品（机、椅子）の導入	実施中
5	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業	2,340,000		自治会が実施する、地域のシンボルとなっている樹木の診断及び治療等に対する支援	実施中
5	緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト	1,260,000		市が実施する、地域のシンボルツリーである長太の大楠の治療等	実施中
鈴鹿市計		16,601,000	-		

【亀山市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
3	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）	837,000		協議会が実施する、イベントや講座の開催に対する支援	実施中
3	森と木材のふれあい事業（森の講座）	500,000		市が実施する、森の講座の開催	完了
3	森と木材のふれあい事業（竹あかり製作）	4,800,000		市が実施する、竹を活用した展示製作やワークショップの開催	完了
4	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（森林公園やまびこ）	300,000		市が実施する、森林公園の八橋の補修	未着手
4	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（鈴鹿峠自然の家）	1,000,000		市が実施する、鈴鹿峠自然の家における木製備品（机）の導入	実施中
4	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（総合保健福祉センターあいあい）	1,463,000		市が実施する、総合保健福祉センターにおける木製備品（机・椅子）の導入	実施中
4	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（関認定こども園アスレ）	1,100,000		市が実施する、こども園における木製キッズハウスの設置	完了
亀山市計		10,000,000	-		

【いなべ市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	危険木の除去事業	3,240,000		自治会等が実施する、通学路や人家裏における危険木伐採への支援	実施中
2	里山竹林環境保全支援事業	5,000,000		活動団体等が実施する、里山や竹林整備への支援	実施中
3	中学校卒業記念品配布事業	968,000		市が実施する、市産材で作成した記念品（箸）の中学校卒業生への配布	実施中
3	自然環境保全事業	1,700,000		市が実施する、森林を活用した体験活動の実施	実施中
いなべ市計		10,908,000	-		

【木曽岬町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
5	暮らしを守る緑保全事業	7,000,000		町が実施する、クビアカツヤカミキリによる被害から桜並木を保全するための取組	実施中
木曽岬町計		7,000,000	-		

【東員町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	危険木伐倒等業務	2,300,000		町が実施する、人家裏や通学路沿いの危険木の伐採等	実施中
3	森林教育授業	285,000		町が実施する、小学生や町民を対象とした森林教育	実施中
4	森と人をつなぐ学びの場づくり	3,250,000		町が実施する、乳幼児を対象とした木製品の配付と町有施設における木製備品の導入	実施中
東員町計		5,835,000	-		

【菰野町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	病虫害被害木伐採搬出事業	4,000,000		土地所有者等が実施する、病虫害による被害木の伐採等への支援	実施中
4	幼児期から木に親しむ木育推進事業	1,962,000		町が実施する、幼稚園における木製遊具等の導入	実施中
4	保育所等木製遊具購入補助事業	3,000,000		私立保育所が実施する、木製遊具等の導入への支援	実施中
菰野町計		8,962,000	-		

【朝日町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	里山・竹林環境保全支援事業 (あさひ竹プロジェクト)	450,000		活動団体が実施する、里山や竹林整備への支援	実施中
3	森林環境教育事業 (あさひ竹プロジェクト)	83,000		町が実施する、竹を活用したさまざまなイベントの開催	実施中
5	教育文化施設ビオトープ再生整備事業	14,500,000		町が実施する、教育文化施設内におけるビオトープの再生整備	実施中
朝日町計		15,033,000	-		

【川越町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
3	小中学校自然教室	2,205,000		町が実施する、小中学生を対象とした自然教室の実施	完了
4	川越南小学校図工室机・椅子購入	1,610,000		町が実施する、川越南小学校の図工室への木製備品（机・椅子）の導入	完了
4	川越北小学校多目的用木製机整備事業	770,000		町が実施する、川越北小学校への木製備品（多目的用机）の導入	実施中
4	川越幼稚園屋外木製机整備事業	715,000		町が実施する、川越幼稚園への木製備品（屋外机）の導入	実施中
川越町計		5,300,000	-		

【津市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
1	津市林地残材搬出促進事業	27,708,000		事業体等が実施する、未利用間伐材の搬出に対する支援	実施中
3	夏休み森と緑の親子塾開催事業	266,000		市が実施する、親子（小学生）を対象とした木工体験や林業体験	完了
3	パートナーシップ協定に基づく森林環境教育事業	220,000		パートナーシップ協定者が実施する、市民を対象とした丸太切り体験、木工教室等	実施中
3	美里水源の森「林業体験」事業	250,000		協議会が実施する、美里水源の森における林業体験への支援	未着手
4	子育て支援センターにおける木育環境整備事業	453,000		市が実施する、子育て支援施設における木製遊具等の導入	完了
津市計		28,897,000	-		

【松阪市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	里山の森林安全安心対策事業	14,973,000		市が実施する、集落や公共施設周辺の危険木の伐採等	実施中
3	松阪の木魅力発信活動事業	300,000		活動団体が実施する、イベントにおける森林教育と木工製品作製への支援	完了
4	森林環境学習事業	3,000,000		市が実施する、小学校の一部木質化と森林教育	完了
4	保育園木育推進事業	2,000,000		市が実施する、こども園における木製備品の導入と木育絵本の読み聞かせ	実施中
5	都市公園整備事業	4,500,000		市が実施する、都市公園内への東屋の設置	実施中
松阪市計		24,773,000	-		

【多気町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
3	木とふれあう教育支援事業	184,000		町が実施する、小学校における木工体験と森林教育	実施中
4	木とふれあう環境づくり	7,550,000		町が実施する、小学校や保育園などへの木製備品の導入	実施中
多気町計		7,734,000	-		

【明和町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	松林整備事業	1,294,000		町が実施する、海岸沿いの松林における病虫害被害木の伐採等	実施中
4	学校木製備品購入事業	5,000,000		町が実施する、小学校における木製机・椅子の導入	実施中
5	木造施設等設置事業	400,000		町が実施する、斎宮きらの森における木製遊具の整備	実施中
明和町計		6,694,000	-		

【大台町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	集落周辺等危険木伐採事業	12,000,000		町が実施する、集落周辺や人家裏の危険木の伐採等	実施中
3	森林環境教育事業①	720,000		町が実施する、地元高校生によるキノコ栽培の体験学習や森林教育	実施中
3	森林環境教育事業②	80,000		町が実施する、小学生を対象とした木工体験と森林教育	実施中
大台町計		12,800,000	-		

【伊勢市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	森林整備事業	13,474,000		市が実施する、海岸沿いの松林における病虫害被害木の伐採、地上散布、樹幹注入等	実施中
4	絆の森・風輪等整備事業	1,300,000		市が実施する、絆の森等における遊歩道の再整備	未着手
伊勢市計		14,774,000	-		

【鳥羽市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	危険木伐採事業	1,829,000		市が実施する、市民生活に支障をきたす恐れがある危険木の伐採	実施中
2	危険木伐採事業費補助金事業	6,000,000		自治会等が実施する、危険木伐採への支援	実施中
—	みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業	500,000		—	—
鳥羽市計		8,329,000	—		

【志摩市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	樹木伐採事業	4,000,000		市が実施する、道路沿いの危険木の伐採	実施中
2	松くい虫防除事業	3,482,000		市が実施する、海岸沿いの松林における病害虫被害木の伐採等	実施中
3	森と緑ふれあい事業	950,000		市が実施する、森林体験学習	実施中
4	磯部ふれあい公園東屋設置工事	1,800,000		市が実施する、磯部ふれあい公園における東屋の設置	実施中
志摩市計		10,232,000	—		

【玉城町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
3	森林環境教育・木育事業	552,000		町が実施する、保育所や小学校における森林教育	実施中
3	森林環境教育事業（森林教育イベント）	3,000,000		町が実施する、森林をテーマとしたパネルディスカッションやイベントの開催	完了
玉城町計		3,552,000	—		

【度会町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
1	流倒木撤去事業	990,000		町が実施する、溪流沿いの流倒木の伐採・除去	実施中
3	森林環境教育推進事業	863,000		町が実施する、保育所や小中学校における森林教育	実施中
4	木材とふれあう場づくり推進事業	4,151,000		町が実施する、保育所等における木製遊具の導入	実施中
度会町計		6,004,000	—		

【大紀町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
1	溪流倒木等処理事業	4,000,000		町が実施する、山間部溪流沿い等の倒木や流木の除去	実施中
2	生活環境林整備事業	4,000,000		町が実施する、公共施設や通学路沿い等の危険木の伐採	実施中
5	大平つつじ山整備事業	3,000,000		町が実施する、大平山つつじ山における環境整備（下刈、遊歩道整備）	実施中
大紀町計		11,000,000	—		

【南伊勢町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	危険木除去事業	3,616,000		町が実施する、公共施設周辺等の危険木除去	実施中
3	森林環境教育事業	1,520,000		町が実施する、小中学校における森林教育	実施中
4	保育園木製備品購入事業	6,290,000		町が実施する、保育園への木製備品の導入	実施中
南伊勢町計		11,426,000	—		

【名張市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	危険木伐採事業	3,995,000		市が実施する、公共施設周辺及び通学路等の危険木の伐採	実施中
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	600,000		森林所有者等が実施する、未利用間伐材の搬出に対する支援	実施中
2	人家裏危険木伐採事業	1,300,000		地域住民等が実施する、人家裏の危険木の伐採に対する支援	実施中
3	森林環境教育推進事業	100,000		地域協議会が実施する、小学校における森林教育に対する支援	実施中
4	学校林整備事業	400,000		活動団体が実施する、学校林における広場等の整備に対する支援	実施中
4	県産材を使った弓道場改修基金積立事業	3,000,000		市が実施する、弓道場射場の木質化と森林教育	実施中
5	森林公園等環境活用整備事業	300,000		地域協議会等が実施する、森林公園等の整備に対する支援	実施中
5	桜並木保全管理事業	400,000		活動団体が実施する、桜並木保全活動に対する支援	実施中
5	国定公園環境整備事業	1,150,000		活動団体が実施する、赤目四十八滝渓谷内の流木の整理や遊歩道の整備	実施中
名張市計		11,245,000	-		

【伊賀市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	みんなの里山整備活動推進事業	6,200,000		自治会等が実施する、集落周辺の里山や竹林の整備に対する支援	実施中
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	3,000,000		森林所有者等が実施する、未利用間伐材の搬出に対する支援	実施中
2	危険木伐採事業	2,000,000		市が実施する、道路沿いの危険木の伐採	実施中
3	伊賀の森っこ育成推進事業	3,000,000		実行委員会が実施する、小中学校における森林教育に対する支援	実施中
3	地域の森と緑のつながり支援事業	150,000		自治会等が実施する、森林・林業・環境学習・木工のイベントや学習活動への支援	完了
3	森のやすらぎ空間整備事業 (伊賀の木活用人材育成)	500,000		活動団体等が実施する、地元高校生と協力して行う地域材を活用した木製品開発への支援	実施中
3	木づかい木育推進事業	3,017,000		市が実施する、出生児及び小学5年生を対象とした木製フォトフレームや地域材の手作り箸キットの配布	実施中
4	幼児教育・保育施設木製遊具整備事業	847,000		市が実施する、保育所や幼稚園への木製遊具の導入	完了
伊賀市計		18,714,000	-		

【尾鷲市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	人家裏危険木伐採事業	1,566,000		自治会等が実施する、人家裏の危険木伐採に対する支援	実施中
3	尾鷲ヒノキを活用した保育園児等への山育事業	385,590		市が実施する、保育園児等を対象とした苗木の配布、植林体験	実施中
4	カップを用いた地元産材に触れ合う場の創出事業	1,220,000		市が実施する、県産材とふれあう機会の創出に向けたカップ体験	実施中
4	尾鷲中学校学習机・椅子整備事業	4,840,000		市が実施する、中学校への市産材を活用した机・椅子の導入	完了
4	木とふれあう学校環境づくり事業	198,000		市が実施する、過去に市町交付金事業で導入した机・椅子の維持修繕と森林教育	実施中
4	木とふれあう保育環境づくり事業	1,010		市が実施する、保育園への木製玩具の導入と森林教育	実施中
5	森と野鳥の学びの場づくり事業	434,500		市が実施する、野鳥の小径ふれあい広場の東屋修繕と自然観察会の実施	実施中
5	中村山公園ほか整備事業	1,593,900		市が実施する、森林公園の整備	実施中
尾鷲市計		10,239,000	-		

【紀北町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	危険木伐採事業	5,250,000		自治会等が実施する、人家裏の危険木の伐採に対する支援	実施中
2	集落周辺森林(里山)整備事業	125,000		活動団体等が実施する、集落周辺等の荒廃した森林の整備や歩道整備に対する支援	実施中
3	森林環境教育活動支援授業	700,000		町や活動団体が実施する、小中学生を対象とした森林教育	実施中
5	緑の植樹活動事業	4,897,000		町が実施する、地域住民等と連携した植樹活動	実施中
紀北町計		10,972,000	-		

【熊野市】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	小・中学校危険木伐採・枝切事業	348,000		市が実施する、学校敷地内において倒木のおそれのある危険木の伐採等	実施中
5	森とふれあいの場拠点づくり事業	13,652,000		市が実施する、森や緑とふれあえる公園等の整備	実施中
熊野市計		14,000,000	-		

【御浜町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	町道危険木伐採事業	1,000,000		町が実施する、道路沿いの危険木の伐採等	完了
5	森林公園等環境整備事業	6,293,000		町が実施する、森や緑とふれあえる公園等の整備	実施中
御浜町計		7,293,000	-		

【紀宝町】

対策区分	事業名	当年度交付額 (円)	基金活用額 (円)	事業内容	進捗状況
2	生活環境林整備事業	5,661,000		町が実施する、公共施設の周辺や生活道路沿いにおける危険木の伐採等	実施中
3	森と緑の環境教育事業	1,000,000		町が実施する、森や緑に関する講演会やワークショップの実施	実施中
5	木質整備事業	910,000		町が実施する、森や緑とふれあえる公園内の水車修繕	完了
紀宝町計		7,571,000	-		

⑩ みえ森と緑の県民税制度運営事業

基本方針：－
対策区分：－

担当課：みどり共生推進課

1 事業の目的

事業実施後の評価等について調査審議する「みえ森と緑の県民税評価委員会」を運営するとともに、みえ森と緑の県民税の認知度向上に向けて、事業の必要性や成果について、県民の皆さんへ広く周知を図ります。

2 事業の必要性

みえ森と緑の県民税を活用した事業の評価・提言については、条例において「みえ森と緑の県民税評価委員会」において、調査審議することとされています。

また、みえ森と緑の県民税の認知度向上に向けて、事業の必要性や成果などを県民の皆さんに広く周知する必要があります。

3 事業の概要

(1) 評価委員会の運営

[評価委員会の開催]

評価委員会を2回開催し、令和6年9月25日付け森緑評第3号により「令和5年みえ森と緑の県民税基金事業の実施後の評価・提言」について、答申をいただきました。

・第1回評価委員会

日時：令和6年7月19日(金) 9:00～11:25
場所：アスト津 4階 アストホール
出席委員：8名（うち3名オンライン出席）
議題：令和5年度みえ森と緑の県民税基金事業の実績
会議の公開：公開
傍聴者：19名（うち14名オンライン出席）



第1回評価委員会開催状況

・第2回評価委員会

日時：令和6年9月18日(水) 9:00～11:15
場所：アスト津 4階 会議室1
出席委員：6名（うち2名オンライン出席）
議題：令和5年度みえ森と緑の県民税基金事業の評価
会議の公開：公開
傍聴者：11名（全員オンライン出席）



第2回評価委員会開催状況

[評価委員会からの評価・提言の周知]

評価委員会からいただいた評価・提言については、9月下旬開催した市町担当者会議で周知を行ったほか、さらにきめ細かに対応するため、11月下旬から12月中旬にかけて、県内全29市町と個別協議の場を設け、市町ごとの課題について意見交換を行いました。

・市町担当者会議

日時：令和6年9月26日(木)
場所：三重県勤労者福祉会館 2階 第2会議室
出席者：31名（うち25名オンライン出席）
議題：令和5年度みえ森と緑の県民税基金事業の評価・提言への対応 など

・各市町との意見交換

日時：令和6年11月25日(月)～12月13日(金)のうち8日間
 場所：各地域県庁舎
 出席者：県内全29市町の県民税担当者
 議題：令和6年度評価委員会の評価・提言への対応
 みえ森と緑の県民税と森林環境譲与税の棲み分け
 令和7年度事業の計画 など



名張市との意見交換

〔評価委員の任命〕

令和6年10月1日から令和8年9月30日(2年間)を任期として、以下10名を評価委員に任命しました。

※五十音順 敬称略

委員名	所属団体等	分野
池山 敦	皇學館大学教育開発センター 准教授	学識経験者
石川 知明	三重大学 名誉教授	学識経験者
井野 和正	三重県商工会連合会 事務局長	商工(団体推薦)
木村 京子	三重県環境学習情報センター センター長	環境教育
谷川 東子	名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授	学識経験者
橋本 直行	三重県生活協同組合連合会 事務局長	消費者(団体推薦)
林 拙郎	三重大学 名誉教授	学識経験者
三田 泰雅	四日市大学総合政策学部 教授	学識経験者
三輪 敏哉	三重県小中学校長会 副会長	教育(団体推薦)
森下 ゆう子	有限会社森下林業	林業

(2) 県民税の認知度向上に向けた取組

10月に「令和5年度事業成果報告書」を作成し広く県内に配布するとともに、11月5日には「令和5年度事業成果発表会」を開催し、県民税を活用した事業の成果を県民の皆さんや市町担当者等に共有しました。

また、ラジオ、テレビ、新聞、位置情報やテレビ視聴データをもとに広告配信する「ジオフィールド」「TVBridge」の活用、各種イベントにおけるブース出展、県施設等でのパネル展示など、さまざまな媒体を活用した普及啓発に取り組みました。

〔事業成果報告書〕

県民の皆さんに令和5年度実施した事業の成果を詳細に報告するため、令和6年10月に「令和5年度事業成果報告書」を作成し、県内に広く配布しました。令和5年度は、第2期(令和元～5年度)の最終年度であることをふまえ、巻末の「資料編」に、第2期5年間の事業実績を掲載しました。



[事業成果発表会]

事業成果を広く県民の皆さんに周知するとともに、市町間の情報共有を図ることを目的に「令和5年度事業成果発表会」を開催しました。今年度は、第2期の取組について総括するとともに、令和5年度実施した県の取組と、評価委員会において評価の高かった4市町の取組について発表が行われました。



令和5年度事業成果発表会の様子

日時：令和6年11月5日(火)

場所：アスト津4階アストホール

出席者：96名（うちオンライン出席29名、アーカイブ後日視聴24名）

- | | | |
|-------|---|-------|
| 発表内容： | 1. みえ森と緑の県民税第2期の総括及び普及啓発について | 【三重県】 |
| | 2. 災害緩衝林整備事業の結果について | 【三重県】 |
| | 3. 令和5年度森林情報基盤整備事業について | 【三重県】 |
| | 4. みえ森づくりサポートセンターの取組について | 【三重県】 |
| | 5. あさひ竹プロジェクトについて | 【朝日町】 |
| | 6. 令和5年度みえ森と緑の県民税を活用した度会町の取組
～災害からライフラインを守る事前伐採事業～ | 【度会町】 |
| | 7. 伊賀の森っこ育成推進事業について | 【伊賀市】 |
| | 8. みえ森と緑の県民税を活用した木と触れ合う機会の創出について | 【尾鷲市】 |

[ラジオを活用した取組]

・オリジナル普及啓発番組(FM三重)の放送

県民税を活用した事業に関わる方々をインタビュー形式で取材し、税の趣旨や具体的な使途などについて、県民の皆さんへ広く周知を図りました。

番組名：みえ森と緑の探検隊

放送期間：令和6年7月18日(木)～10月10日(木)

放送枠：毎週木曜(全13回) 16:30～16:40(10分番組)

- | | | |
|-------|----------------------|-------------------|
| 放送内容： | 1. みえ森と緑の県民税とは？ | 【三重県】 |
| | 2. 登山歩道のボランティア整備 | 【(公社)大杉谷登山センター】 |
| | 3. 災害に強い森林づくり | 【三重県】 |
| | 4. 玉城町のさまざまな取組 | 【玉城町】 |
| | 5. 森林環境教育の新たな取組 | 【紀北町】 |
| | 6. 災害からライフラインを守る事前伐採 | 【中部電力パワーグリッド株式会社】 |
| | 7. 大台町のさまざまな取組 | 【大台町】 |
| | 8. 保育園への木製おもちゃの導入 | 【伊賀市】 |
| | 9. 森林フェスタ2024志摩 | 【三重県】 |
| | 10. 県民税を活用して推進する森林教育 | 【熊野林星会】 |
| | 11. みえ森林教育ステーションでの取組 | 【津市】 |
| | 12. みえの樹木百選に会おうバスツアー | 【NPO法人大杉谷自然学校】 |
| | 13. 県民税と森林環境譲与税 | 【三重県】 |



・番組リスナーを対象とした森林と親しむツアーの開催

大杉谷地域をフィールドに地域の自然・人・文化を生かした環境教育プログラムの提供に取り組む「NPO法人大杉谷自然学校」にご協力いただき、番組リスナーを対象とした森林を身近に感じその大切さについて伝えるバスツアーを開催しました。

参加者の皆さんには、ウォークラリー形式で森林を散策しながら「みえの樹木百選」に指定された「大杉神社の大スギ」「大淵寺のスタジイ」を紹介し、森林や木の魅力を体感していただきました。また、平成23年に発生した土砂災害の跡地を見学していただき、災害に強い森林づくりの重要性について学んでいただきました。

ツアー名：FM三重パーソナリティと行く！

みえの樹木百選と会おうバスツアー！

開催日：令和6年9月14日(土)

開催場所：多気郡大台町大杉・久豆地内

参加人数：20名

※抽選にて参加者決定 応募者76名

協力：NPO法人大杉谷自然学校



森林に関するレクチャー



木の大きさを体感



スタジイの前で記念撮影

・イベントにおけるトークショー開催とブース出展

県内最大規模となる生活総合提案型イベント「住まいと暮らしの総合フェア2024」において、番組パーソナリティの宮原えりかさんと横山佳織さんによる「みえ森と緑の探検隊トークショー」を開催しました。トークショーでは、県民税に関する2人の軽快なトークのほか、森に関するクイズ大会を開催し、子どもたちをはじめとする来場者に森林の働きや大切さについて伝えました。また、会場内には県民税のPRブースを出展し、パネル展示や「みえの森フォトコンテスト」の入賞作品の展示を行うとともに、子どもたちには木製のボールプールで木のぬくもりを体感していただきました。

イベント名：住まいと暮らしの総合フェア2024in四日市ドーム

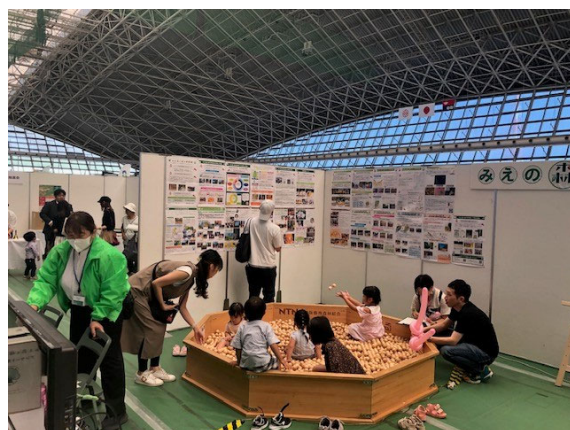
開催日：令和6年10月12日(土)～13日(日)

開催場所：四日市ドーム

来場者：9,713人



みえ森と緑の探検隊トークショー



県民税PRブース

[テレビを活用した取組]

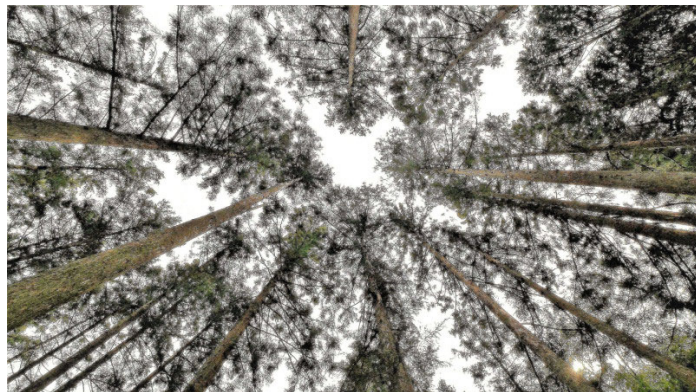
CBCテレビ番組「チャント」(月～金)の三重の魅力を紹介するコーナー「よしお兄さんの“みえ”推し」(毎週水曜日放送)において、県民税を活用して進める「災害に強い森林づくり」について紹介しました。

放送日 : 令和6年11月27日(水)

取材場所: 津農林水産事務所・津市榊原町地内



津市における災害に強い森林づくりを紹介



イチ推し！フォト「人工的に作り出した木漏れ日」

[新聞を活用した取組]

県内において圧倒的な購読シェアを誇る「中日新聞」において、特集紙面「みえ森と緑の県民税を知っていますか？」を掲載しました。

掲載日 : 令和6年10月12日(土) 朝刊

掲載体裁 : カラー15段(記事8段+広告7段)

掲載内容 : みえ森と緑の県民税を知っていますか？

- ・みえ森と緑の県民税導入の経緯
- ・みえ森と緑の県民税の主な取組
- ・みえ森と緑の県民税と森林環境譲与税
- ・「三重の森づくり運動」の推進

[ジオフィールドを活用したPR動画の配信]

スマートフォンの位置情報をもとに、キャンプ場や森林公園、アウトドアショップなどに訪れた、山や森林など自然に関心が高い人たちに、「YouTube」において県民税のPR動画(15秒)を効果的に配信しました。

配信期間 : 令和6年11月1日～30日(1ヶ月間)

ターゲットポイント:

三重県民の森、三重県上野森林公園、県内キャンプ場、アウトドアショップなど97箇所

表示回数 : 157,742回

完全視聴数 : 103,148回(65.4%)

[TVBridgeを活用したPR動画の配信]

テレビの視聴情報をもとに、自然や環境関係の番組を視聴した、山や森林など自然に関心が高い人たちに、「ABEMA」「DAZN」において県民税のPR動画(15秒)を効果的に配信しました。

配信期間 : 令和6年12月1日～31日(1ヶ月間)

ターゲット番組:

にっぽん百名山、さわやか自然百景、ヒロシのぼっちキャンプなど自然・環境関連番組

表示回数 : 18,535回

完全視聴数 : 18,245回(98.4%)

[各種イベントにおけるブース出展]

県主催イベントなどにおいて積極的にブース出展し、県民税に関するパネル展示や木製のボールプール体験などによる普及啓発に取り組みました。

出展実績：	8月25日(日)	三重トヨペット感謝祭	メッセウイングみえ(津市)
	10月5日(土)	みえ森林フェスタ2024志摩	阿児アリーナ(志摩市)
	11月4日(月)	豊かな海づくりフェスタ	宿田曾漁港(南伊勢町) ※中止
	12月15日(日)	みえ環境フェア2024	メッセウイングみえ(津市)



三重トヨペット感謝祭 (R6. 8. 25)



みえ環境フェア2024 (R6. 12. 15)

[県施設等におけるパネル展示]

県施設等において、県民税に関するパネル展示を行いました。実績は以下のとおりです。

期間	場所
令和6年6月17日(月)～6月21日(金)	三重県庁1階県民ホール
令和6年7月15日(月)・20日(土)	津市安東コミュニティセンター
令和6年8月1日(木)～8月30日(金)	伊賀庁舎2階県民ホール
令和6年8月24日(土)・25日(日)	津松菱百貨店(森と木の体験広場)
令和6年9月5日(木)～9月30日(月)	伊賀市役所3階
令和6年10月8日(火)～10月25日(金)	松阪庁舎1階ロビー
令和6年10月29日(火)	西垣林業三重事業所マルタピア
令和6年11月1日(金)～11月29日(金)	三重県上野森林公園
令和6年11月2日(土)	津市農林水産まつり
令和6年11月10日(日)	どんとこい大台まつり
令和6年11月19日(火)～12月20日(金)	尾鷲庁舎1階ロビー
令和6年11月30日(土)～12月27日(金)	三重県立図書館
令和6年12月10日(火)～12月24日(火)	明和町役場研修室
令和6年12月7日(土)	林業研究所アカデミー棟大教室



三重県伊賀庁舎



三重県尾鷲庁舎

[啓発物品を活用した取組]

タオルハンカチ、鉛筆、リーフレットなどの啓発物品を作成するとともに、これらを活用した普及啓発活動に取り組みました。実績は以下のとおりです。

・ 県内コンビニ・イオングループ店舗での印刷物配布・掲示

期間	配布先	配布物・部数
令和6年4月1日～4月30日	イオン（20店舗）	チラシ・310部
令和6年5月1日～5月31日	マックスバリュ（11店舗）	リーフレット・110部
令和6年6月1日～6月30日	ファミリーマート（380店舗）	ポスター・380部
令和6年8月1日～8月31日	イオン（19店舗）	チラシ・300部
令和6年9月1日～9月30日	イオン（19店舗）	ポスター・19部

・ 各種イベント等での配布

各種イベントにおける出展ブースやパネル展示において、アンケートに回答していただいた方に啓発物品を配布しました。

<主な啓発物品>

タオルハンカチ、軍手、鉛筆、クリアファイル、
チラシ、リーフレット、ポケットティッシュ、
うちわ、シール など



パネル展示での啓発物品配布

(3) 「みえの木づくり」推進に向けた取組

令和6年10月5日開催の「みえ森林フェスタ2024志摩」において、日常生活における木材利用の推進を目的に行っている「みえの木製品コンテスト2024」の応募作品を展示しました。来場者の皆さんには、応募作品に直接ふれていただきながら、作品の審査を行っていただきました。また、過年度のコンテスト受賞作品を展示するとともに、「木材利用と森林づくりのつながり」の理解を深めていただくため、木材利用の意義や木材の効果・効用などを分かりやすく紹介した冊子を配布しました。

令和7年3月には、木づくりの意識の醸成を目的とした、親子対象のバスツアーを開催予定です。

[みえ森林フェスタ2024志摩における「みえの木製品コンテスト」ブース出展]

日時：令和6年10月5日(土)
場所：志摩市阿児アリーナ
ブース来場者：約460名



来場者の皆さんによる作品の審査



木材利用と森林づくりのつながりを発信

4 県民税の認知度とアンケート調査の実施

(1) 県民税の認知度

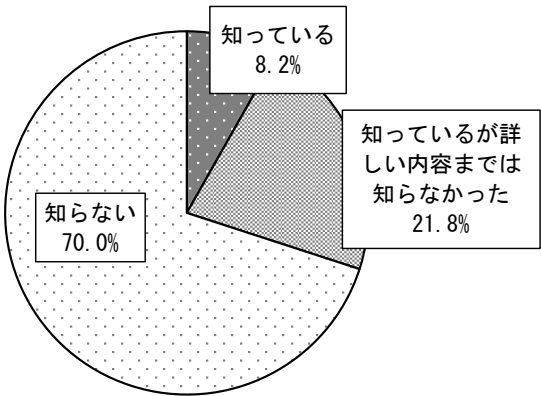
県では毎年e-モニター制度を活用し、県民税の認知度について調査を行っています。令和6年度の調査結果及び認知度の推移については以下のとおりです。

実施期間：令和6年7月10日～16日
対象者：民間リサーチ会社が抱える県内の顧客
回答数：1,000人
設問内容：

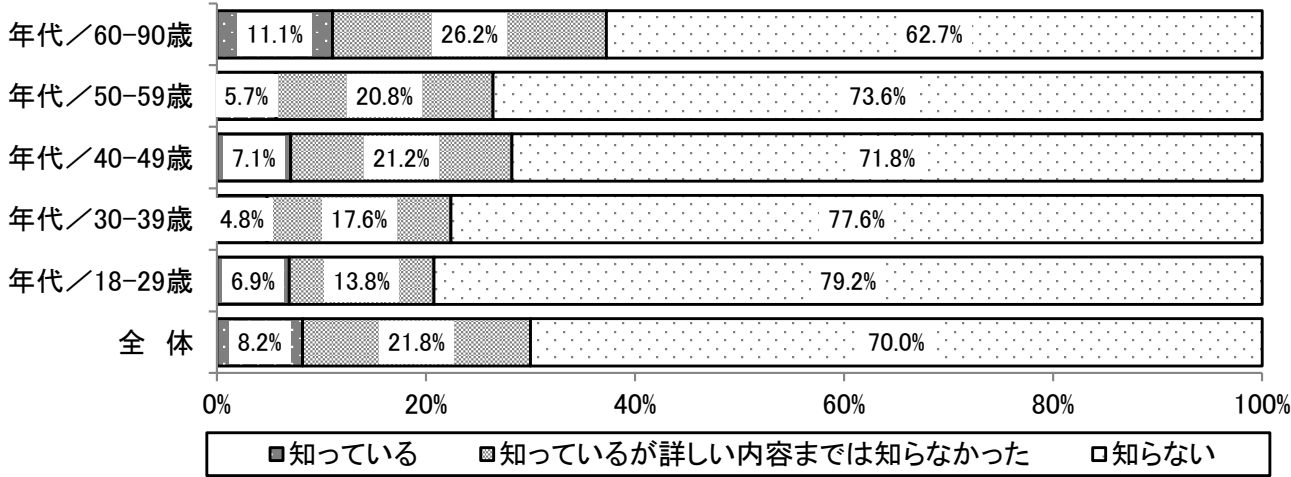
三重県では、平成26年から「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため「みえ森と緑の県民税」を導入し、個人は年額1,000円、法人は資本金額に応じた県民税均等割の10%相当額（年額2,000円～80,000円）を納めていただいています。

この「みえ森と緑の県民税」を活用し、県では災害に強い森林づくりに取り組むとともに、市町が人家裏や通学路沿いの暮らしに身近な危険木の伐採、教育現場への木製備品の導入など地域に密着した取組を行っています。あなたは「みえ森と緑の県民税」をご存じですか。

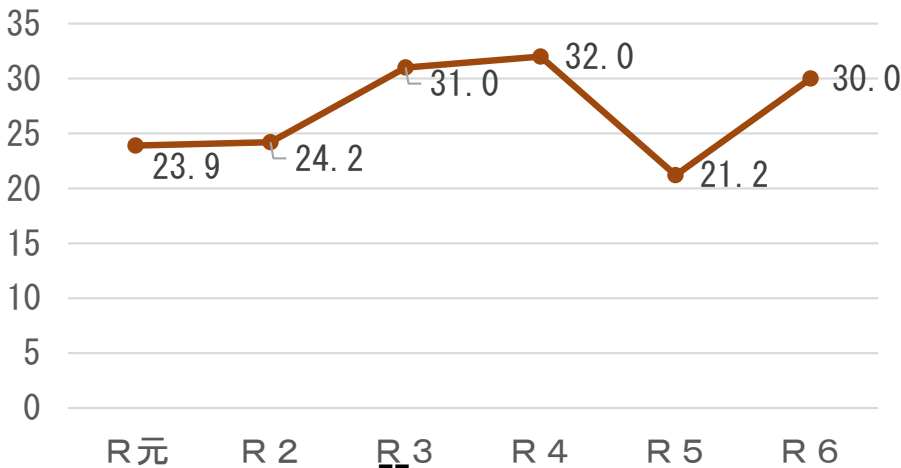
○ 調査結果(全体)



○ 調査結果(年代別)



○ 認知度の推移



（２） アンケート調査の実施

県では、県民の皆さんの声を今後の取組に生かすため、イベントにおけるブース出展やパネル展示を行った際、県民税に関するアンケート調査を行っています。※回答人数890人



アンケートの実施（三重県上野森林公園）



アンケートの実施（津市農林水産まつり）

<アンケートでの主な意見>

○普及啓発について

- ・ イベントにおけるパネル出展などを通じて、さらに普及させてほしい。
- ・ パネル展示について、簡単にでも説明を聞くことができるとさらに分かりやすい。
- ・ パネル展示について、子ども連れだとゆっくり見るができないが、遊ぶスペース（木製のボールプール）があると子どもを遊ばせながら見るできるので良い。
- ・ パネル展示について、情報量が多く表現が硬い。文章をシンプルにして、より身近に感じられるよう表現すると分かりやすい。
- ・ 県外からの移住者に市役所や町役場においてパンフレットなどを配布するとよいのでは。
- ・ FM三重のラジオ番組が再開されるといいですね。
- ・ 取組を県政だよりで発信してほしいです。

○県民税全般について

- ・ 森を守るとは海を守り災害を防ぐことができる。第3期（5年間）だけでなく、継続的な取組が必要。
- ・ 自分たちへの直接的な災害に、森林が関係していることに気づかされた。
- ・ 豊かなみえの森の存続のため、必要不可欠な事は理解できます。学校教育から生かせるとよいですね。
- ・ とても大切な取組だと感じます。学校教育ともっと密接に関われるとなおよいと思います。
- ・ 子供たちの未来のために、森林を守ることが大切ですね。木のぬくもりある遊び場や施設があるといいですね。
- ・ 子供のときから自然及び森林について学習できる機会を持つことが必要であると思う。
- ・ 木とのふれあいの教育を促進するべきでは？
- ・ 日常で木にふれあうことが少なくなり、子育てをする中で、改めて木のぬくもりや大事さを教えたいと思います。
- ・ 国の森林環境税が導入され、みえ森と緑の県民税と二重課税になるのでは？
- ・ 人間のための森も大事だが、森で暮らす生き物のことをもっと考えるべきである。
- ・ 森林の多い地域の人たちだけでなく、県民全体の問題としてしっかりと取り組むべき。